

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 11 月 29 日(29.11.2012)



(10) 国際公開番号

WO 2012/160674 A1

- (51) 国際特許分類:
G06F 3/048 (2006.01) G09G 5/00 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2011/061999
- (22) 国際出願日: 2011 年 5 月 25 日(25.05.2011)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 富士通株式会社(FUJITSU LIMITED) [JP/JP]; 〒2118588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4 丁目 1 番 1 号 Kanagawa (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 北岡 裕幸 (KITAOKA, Hiroyuki) [JP/JP]; 〒2118588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4 丁目 1 番 1 号 富士通株式会社内 Kanagawa (JP).
- (74) 代理人: 松倉 秀実, 外(MATSUKURA, Hidemi et al.); 〒1030004 東京都中央区東日本橋 3 丁目 4 番 10 号 アクロポリス 21ビル 6 階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA,

BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーロシパ (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ユーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

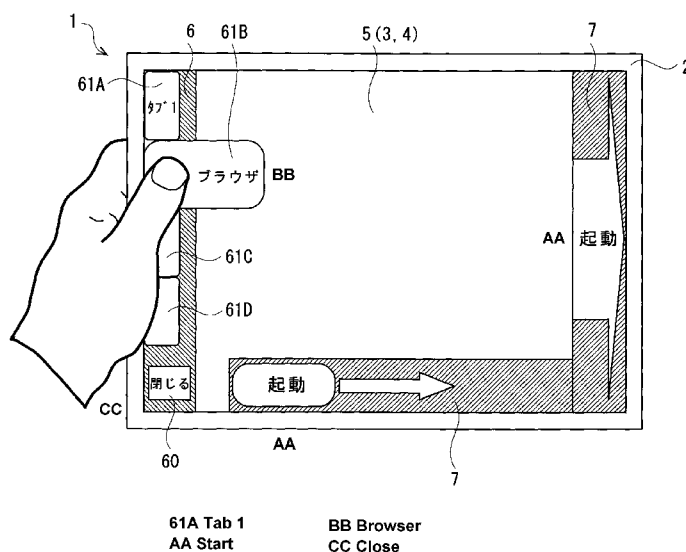
添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

(54) Title: INFORMATION PROCESSING DEVICE, CONTROL METHOD, AND PROGRAM

(54) 発明の名称: 情報処理装置、制御方法及びプログラム

[図3]



(57) Abstract: An information processing device equipped with: a screen display unit capable of displaying information and detecting operations whereby the surface is touched; a display unit that displays an object on the screen display unit; and a control unit that, when an object displayed on the screen display unit is selected by means of a touch operation with respect to the object and then a prescribed operation different than the touch operation is performed with respect to the object, executes a process in response to the selected object. When the object has been selected, the display unit displays on the screen display unit prescribed information pertaining to the selected object; in addition, the aforementioned prescribed operation is a touch operation with respect to the prescribed information that has been displayed on the screen display unit.

(57) 要約: 情報処理装置は、情報の表示と、表面への接触操作の検出とが可能で、画面表示部と、前記画面表示部にオブジェクトを表示する表示部と、前記画面表示部に表示された前記オブジェクトに対する接触操作によって前記オブジェクトが選択された後、選択された前記オブジェクトに対する接触

操作と異なる所定の操作が行われた場合、選択された前記オブジェクトに応じた処理を実行する制御部と、を備え、前記表示部は、前記オブジェクトが選択された場合、選択された前記オブジェクトに関する所定の情報を前記画面表示部に表示し、前記所定の操作は、前記画面表示部に表示された前記所定の情報に対する接触操作である。

WO 2012/160674 A1

明 細 書

発明の名称： 情報処理装置、制御方法及びプログラム

技術分野

[0001] 本発明は、情報処理装置、制御方法及びプログラムに関する。

背景技術

[0002] タッチパネル部とディスプレイ部とが一体化された電子手帳、PDA（Personal Digital Assistance）、スマートフォン及びタブレット装置等の携帯型情報処理装置がある。これらの携帯型情報処理装置は、両手又は片手で装置筐体が保持され、指やペンを用いて操作する形態であり、画面に表示されるアイコン、タブ及びメニュー等のオブジェクトへの接触操作によってプログラム等が起動され、又は画面の表示が切り替えられる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2008-27453号公報

特許文献2：特開平09-6576号公報

特許文献3：特開平06-309136号公報

特許文献4：特開平08-286882号公報

特許文献5：特開2004-288208号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 画面に表示されるアイコン、タブ及びメニュー等のオブジェクトに指やペンが誤って接触した場合、本来、起動させる必要のないプログラムが起動する場合がある。この場合、起動させる必要のないプログラムの終了処理を余分に行う必要がある。また、起動させたいプログラムの起動処理を新たに行う必要があるが、起動させる必要のないプログラムが起動したままの状態の場合、メモリの使用可能領域が減少する。メモリの使用可能領域が減少した状態が続くと、新たなプログラムの起動が出来なくなったり、CPU（Centr

al Processing Unit) の処理が遅くなったりする。また、画面に表示されるアイコン、タブ及びメニュー等のオブジェクトへの接触操作によって画面の表示が切り替えられる場合、意図せずにプライバシー情報が画面に表示されてしまう事がある。このような問題点に鑑み、実施形態の一態様に係る目的は、画面に表示されるオブジェクトに対する接触操作によって、オブジェクトに応じた処理が直ちに実行されることを抑止する技術を提供することにある。

課題を解決するための手段

[0005] 開示の技術の一側面は、次の情報処理装置の構成によって例示される。すなわち、情報処理装置は、情報の表示と、表面への接触操作の検出とが可能な画面表示部と、前記画面表示部にオブジェクトを表示する表示部と、前記画面表示部に表示された前記オブジェクトに対する接触操作によって前記オブジェクトが選択された後、選択された前記オブジェクトに対する接触操作と異なる所定の操作が行われた場合、選択された前記オブジェクトに応じた処理を実行する制御部と、を備え、前記表示部は、前記オブジェクトが選択された場合、選択された前記オブジェクトに関する所定の情報を前記画面表示部に表示し、前記所定の操作は、前記画面表示部に表示された前記所定の情報に対する接触操作である。

発明の効果

[0006] 情報処理装置によれば、画面に表示されるオブジェクトに対する接触操作によって、オブジェクトに応じた処理が直ちに実行されることを抑止することができる。

図面の簡単な説明

[0007] [図1] 図1は、実施例1に係る情報処理装置1の外観図である。

[図2] 図2は、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に、タブ60及びタブ61Aー61Dが表示された場合の情報処理装置1を示す図である。

[図3] 図3は、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61Bが選択され、制御処理の一例である「起動」が、画面表示部5のスライド

検出領域 7 に表示された状態を示す図である。

[図4] 図 4 は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 の機能ブロック図である。

[図5] 図 5 は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 のハードウェア構成を示す図である。

[図6] 図 6 は、第 1 のタブ群（タブ群 1）の属性データ及び登録データを示す図である。

[図7] 図 7 は、第 1 のタブ群の下位階層の第 2 のタブ群の属性データ及び登録データを示す図である。

[図8] 図 8 は、実施例 1 に係るオブジェクト選択確定処理のフロー図である。

[図9] 図 9 は、実施例 1 に係るオブジェクト選択確定処理のフロー図である。

[図10] 図 10 は、選択されたタブ 6 1 の表示状態が変更された状態を示す図である。

[図11] 図 11 は、選択されたタブ 6 1 の表示状態が変更された状態を示す図である。

[図12] 図 12 は、オブジェクト表示領域 6 に 6 1 E - 6 1 H が新たに表示された場合の画面表示部 5 を示す図である。

[図13] 図 13 は、画面表示部 5 のスライド検出領域 7 に表示された「起動」に対してスライド操作が行われた状態を示す図である。

[図14] 図 14 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 の外観図である。

[図15A] 図 15 A は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 が閉じた状態における情報処理装置 1 の外観図である。

[図15B] 図 15 B は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 が閉じた状態における情報処理装置 1 の外観図である。

[図16] 図 16 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 の機能ブロック図である。

[図17] 図 17 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 のハードウェア構成を示す図である。

[図18] 図 18 は、実施例 2 に係るオブジェクト選択確定処理のフロー図である。

[図19]図 1 9 は、実施例 2 に係るオブジェクト選択確定処理のフロー図である。

[図20]図 2 0 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 が閉じた状態における情報処理装置 1 の外観図である。

[図21A]図 2 1 A は、実施例 3 に係る情報処理装置 1 が閉じた状態における情報処理装置 1 の外観図である。

[図21B]図 2 1 B は、実施例 3 に係る情報処理装置 1 が開いた状態における情報処理装置 1 の外観図である。

[図22A]図 2 2 A は、情報処理装置 1 が閉じた状態において、筐体 2 D をスライド移動させる前の情報処理装置 1 の外観図である。

[図22B]図 2 2 B は、情報処理装置 1 が閉じた状態において、筐体 2 D をスライド移動させた後の情報処理装置 1 の外観図である。

[図23]図 2 3 は、実施例 3 に係るオブジェクト選択確定処理のフロー図である。

[図24]図 2 4 は、実施例 3 に係るオブジェクト選択確定処理のフロー図である。

[図25]図 2 5 は、画面表示部 5 D にオブジェクト表示領域 6 を配置した場合の情報処理装置 1 の外観図である。

発明を実施するための形態

[0008] 以下、図面を参照して、一実施形態に係る情報処理装置について説明する。以下の実施形態の構成は例示であり、本情報処理装置は実施形態の構成には限定されない。

実施例 1

[0009] 以下、図 1 から図 1 3 に基づいて、実施例 1 に係る情報処理装置 1 を説明する。図 1 は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 の外観図である。実施例 1 に係る情報処理装置 1 は、持ち運び可能な筐体内に処理部を備え、筐体の一面に画面表示部が設置された装置であり、携帯型情報処理装置とも呼ばれる。情報処理装置 1 は、例えば、電子手帳、PDA (Personal Digital Assist

ance)、スマートフォン、タブレット装置、携帯電話、電子ブック等である。

[0010] 図1に示すように、情報処理装置1は、筐体2の一方面にディスプレイ部3とタッチパネル部4とが一体化された画面表示部5が設けられている。画面表示部5は、ディスプレイ部3及びタッチパネル部4を有しているので、図1において、ディスプレイ部3及びタッチパネル部4の符号を()内に示した。ディスプレイ部3の画面には、オブジェクト、画像及び文字等が表示される。オブジェクトは、例えば、アイコン、タブ、ボタン及びメニュー等である。タッチパネル部4では、指又はペン等によってタッチパネル部4の表面に対する接触操作が行われ、タッチパネル部4の表面に対する接触操作を検出する。

[0011] 図1に示すように、画面表示部5の左端部にオブジェクト表示領域6が配置されている。また、図1に示すように、画面表示部5の右端部及び下端部にスライド検出領域7が配置されている。オブジェクト表示領域6では、オブジェクトの表示が行われるとともに、画面表示部5に対する接触操作（押下操作）によってオブジェクトの選択（指定）が行われる。すなわち、指又はペン等が画面表示部5に表示されるオブジェクトに接触することによって、画面表示部5に表示されるオブジェクトの選択が行われる。操作者は、情報処理装置1を左手で持ちつつ、左手の指で画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるオブジェクトの選択を行うことが可能である。操作者は、右手の指で画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるオブジェクトの選択を行ってもよい。

[0012] スライド検出領域7には、選択されたオブジェクトに応じた制御処理が表示される。選択されたオブジェクトが、プログラムを起動するためのオブジェクトの場合、選択されたオブジェクトに応じた制御処理として、[起動]がスライド検出領域7に表示される。すなわち、選択されたオブジェクトに応じた制御処理に関する所定の情報がスライド検出領域7に表示される。制御処理に関する所定の情報は、制御処理を特定可能な情報であり、例えば、

制御処理の名称、識別番号、マーク、標識等である。

- [0013] また、スライド検出領域 7 では、スライド操作が行われることにより、選択されたオブジェクトに応じた制御処理が確定する。スライド操作とは、画面表示部 5 に対して指又はペン等を接触させた状態で、指又はペン等を移動させる操作をいう。選択されたオブジェクトがプログラムを起動するためのオブジェクトの場合、スライド検出領域 7 に「起動」が表示された状態で、スライド検出領域 7 に対してスライド操作が行われることにより、プログラムの起動処理が確定する。プログラムの起動処理が確定した場合、情報処理装置 1 によってプログラムが起動される。
- [0014] 選択されたオブジェクトが、他のオブジェクトを画面表示部 5 に表示するためのオブジェクトの場合、選択されたオブジェクトに応じた制御処理として、「開く」がスライド検出領域 7 に表示される。選択されたオブジェクトが他のオブジェクトを画面表示部 5 に表示するためのオブジェクトの場合、スライド検出領域 7 に「開く」が表示された状態で、スライド検出領域 7 に対してスライド操作が行われることにより、他のオブジェクトを画面表示部 5 に表示する処理が確定する。他のオブジェクトを画面表示部 5 に表示する処理が確定した場合、画面表示部 5 に他のオブジェクトが表示される。
- [0015] ここでは、スライド検出領域 7 においてスライド操作が行われることにより、選択されたオブジェクトに応じた制御処理が確定する例を示した。これに限らず、スライド検出領域 7 において接触操作が行われることにより、選択されたオブジェクトに応じた制御処理が確定するようにしてもよい。また、物理的なボタンやスイッチ等を筐体 2 に対して設け、ボタンやスイッチ等を押下することにより、選択されたオブジェクトに応じた制御処理が確定されるようにしてもよい。
- [0016] 図 2 は、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に、タブ 60 及びタブ 61A-61D が表示された場合の情報処理装置 1 を示す図である。図 2 に示すように、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 には、タブ 60 及びタブ 61A-61D が表示されている。以下では、オブジェクトの一例であるタ

ブを画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示する場合について説明するが、タブに替えてアイコンやメニュー等を画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示してもよい。なお、タブ61A-61Dを総称する場合や、タブ61A-61Dのうちのいずれか一つ又は複数を指す場合、タブ61と表記する。

[0017] オブジェクト表示領域6に表示されたタブ60が選択された場合、画面表示部5に表示されているデータを閉じる処理や、起動しているプログラムを終了する処理等が行われる。オブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択された場合、選択されたタブ61に応じた制御処理がスライド検出領域7に表示される。例えば、選択されたタブ61がアプリケーションの起動に関する事項である場合、選択されたタブ61に応じた制御処理は「起動」となる。図3は、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61Bが選択され、制御処理の一例である「起動」が、画面表示部5のスライド検出領域7に表示された状態を示す図である。

[0018] オブジェクト表示領域6に表示されるタブ61には属性データ及び登録データが規定されており、タブ61に規定される属性データに基づいて、選択されたタブ61に応じた制御処理に関する所定の情報がスライド検出領域7に表示される。タブ61に規定される属性データは、タブ61の名称、デザイン及び選択されたタブ61に応じた制御処理等を定義したデータである。タブ61に規定される登録データは、タブ61が選択された場合のタブ61の名称、タブ61が選択された際に実行される制御処理の名称や種類等を定義したデータである。制御処理は、例えば、プログラムやアプリケーションの起動処理、データベースやシステム設定の閲覧処理及び設定処理、パスワードの入力処理、指紋認証処理、情報の表示処理、画面の切り替え処理等である。

[0019] <情報処理装置の機能構成>

図4は、実施例1に係る情報処理装置1の機能ブロック図である。図4に示すように、情報処理装置1は、ディスプレイ部3、タッチパネル部4、制

御部 10、記憶部 11、表示部 12 及び入力部 13 を有している。

[0020] 制御部 10 は、記憶部 11 に記憶されているデータに基づいて、ディスプレイ部 3 の画面にオブジェクト、画像及び文字等が表示されるように、表示部 12 に命令を送る。制御部 10 は、入力部 13 を介して、タッチパネル部 4 から接触操作に関する情報を取得する。制御部 10 は、入力部 13 を介して接触操作に関する情報を取得した場合、記憶部 11 に記憶されているオブジェクトに関する情報を参照して、選択されたオブジェクトに応じた制御処理をディスプレイ部 3 の画面に表示する。ディスプレイ部 3 の画面に表示されたオブジェクトが選択された場合、制御部 10 は、記憶部 11 に記憶されているデータに基づいて、選択されたオブジェクトに応じた制御処理を実行する。

[0021] 記憶部 11 は、ディスプレイ部 3 の画面に表示されるオブジェクトのデータや制御部 10 が処理を行うのに必要なデータを記憶する。表示部 12 は、制御部 10 からの命令に基づいて、ディスプレイ部 3 にオブジェクト、画像及び文字等のデータを出力する。ディスプレイ部 3 は、表示部 12 から出力されたオブジェクト、画像及び文字等のデータに従って、オブジェクト、画像及び文字等を画面に表示する。

[0022] 入力部 13 は、タッチパネル部 4 に対して接触操作が行われた場合、接触操作に関する情報をタッチパネル部 4 から取得する。また、入力部 13 は、タッチパネル部 4 から取得した接触操作に関する情報を制御部 10 に引き渡す。

[0023] <情報処理装置のハードウェア構成>

図 5 は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 のハードウェア構成を示す図である。図 5 に示すように、情報処理装置 1 は、CPU (Central Processing Unit) 20、メモリコントローラ 21、メインメモリ 22、ビデオカード 23、ディスプレイ 24、I/O コントローラ 25、タッチパネル 26、ディスクコントローラ 27 及び記憶ディスク装置 28 を有している。

[0024] CPU 20 は、メモリコントローラ 21 を経由してメインメモリ 22 上の

プログラム及びデータを読み込み、解釈し実行する。実行の結果は、メモリコントローラ 21 を経由してメインメモリ 22 に格納されるとともに、ビデオカード 23 を経由してディスプレイ 24 に表示される。また、CPU 20 は、I/Oコントローラ 25 を経由してタッチパネル 26 に対する接触操作を認識する。更に、CPU 20 は、必要に応じて、ディスクコントローラ 27 を経由して、記憶ディスク 28 からプログラム及びデータをメインメモリ 22 に読み込ませたり、実行の結果やメインメモリ 22 上のデータを記憶ディスク 28 に書き込んだりする。

[0025] メモリコントローラ 21 は、メインメモリ 22 を制御し、必要なデータを CPU 20 やディスクコントローラ 27 を経由して記憶ディスク 28 に書き込む。メインメモリ 22 は、メモリコントローラ 21 の制御に従い、プログラムやデータを記憶したり出力したりする。メインメモリ 22 は、例えば、揮発性の RAM (Random Access Memory)、不揮発性の ROM (Read Only Memory) 等である。ビデオカード 23 は、CPU 20 の命令を受けて、ディスプレイ 24 に画像データを出力する。ディスプレイ 24 は、ビデオカード 23 からの画像データの出力を受けて、画像を表示する。ディスプレイ 24 は、例えば、液晶表示装置、プラズマディスプレイパネル、エレクトロルミネッセンスパネル等である。

[0026] I/Oコントローラ 25 は、タッチパネル 26 に対する接触操作を、CPU 20 へ入力信号として通知する。タッチパネル 26 は、その表面に対する接触操作を、I/Oコントローラ 25 へ入力信号として通知する。タッチパネル 26 は、指やペン等で操作可能であれば、どのような方式のパネルであってもよく、例えば、光学式、抵抗膜式、静電容量式、超音波式等のパネルであってもよい。

[0027] ディスクコントローラ 27 は、CPU 20 の命令に従い、データを記憶ディスク装置 28 に出力したり、記憶ディスク 28 からデータを読み出したりする。記憶ディスク 28 は、ディスクコントローラ 27 の制御に従い、データを記憶したり、データをディスクコントローラ 27 に出力したりする。記

憶ディスク装置 28 は、例えば、磁気ディスク装置、光ディスク装置等である。

[0028] <属性データ及び登録データの説明>

図 6 は、第 1 のタブ群（タブ群 1）の属性データ及び登録データを示す図である。第 1 のタブ群は、タブ 60 に規定された属性データ及び登録データと、タブ 61A-61D に規定された属性データ及び登録データとを一つのグループとしている。また、情報処理装置 1 の起動後において、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に最初に表示されるタブ群を、第 1 のタブ群としている。

[0029] 図 6 に示す [タブ 0] [タブ 1] [タブ 2] [タブ 3] [タブ 4] の列に、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 60、61A-61D の属性データ及び登録データの各レコードが作成されている。

[0030] 図 6 に示す [タブ 0] の属性データ及び登録データは、システム予約の特別タブの属性データ及び登録データである。図 6 に示す [タブ 0] の属性データ及び登録データには、起動されているプログラムの終了等に関する情報が規定されている。

[0031] 図 6 に示す [タブ 1] [タブ 2] [タブ 3] [タブ 4] の属性データ及び登録データは、プログラムやアプリケーション等を起動するための起動タブ、データベースやシステム設定等を閲覧するための閲覧タブ等の属性データ及び登録データである。

[0032] 図 6 に示す属性データの『名称』の各フィールドには、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 60、61A-61D の名称が定義されている。図 6 に示す [タブ 0] における属性データの『名称』のフィールドに [閉じる] が設定されることにより、図 2 に示すように、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に、〈閉じる〉が表記されたタブ 60 が表示される。図 6 に示す [タブ 1] における属性データの『名称』のフィールドに [タブ 1] が設定されることにより、図 2 に示すように、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に、〈タブ 1〉が表記されたタブ 60 が表示される。

画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるタブ60、61A-61Dの名称は、情報処理装置1の操作者が任意に変更することが可能である。

- [0033] 図6に示す属性データの『制御方法』の各フィールドには、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるタブ61が選択された場合の動作方法として、[制限]又は[フリー]の2パターンが設定される。図6に示す属性データの『制御処理』の各フィールドには、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるタブ61が選択された場合に実行される制御処理が設定される。
- [0034] 図6に示すように、[タブ2]における属性データの『制御方法』のフィールドに[制限]が設定されている。この場合、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるタブ61Bが選択されると、図6に示す[タブ2]における属性データの『制御処理』のフィールドに設定されている[起動]が、画面表示部5のスライド検出領域7に表示される（図3参照）。
- [0035] 図6に示すように、[タブ1]における属性データの『制御方法』のフィールドに[フリー]が設定されている。この場合、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるタブ61Aが選択されると、図6に示す[タブ1]における属性データの『制御処理』のフィールドに定義されている[開く]という処理が直ちに実行される。すなわち、属性データの『制御方法』のフィールドに[フリー]が設定されている場合、属性データの『制御処理』のフィールドに設定されている処理を示す情報は、画面表示部5のスライド検出領域7に表示されない。
- [0036] 図6に示す[タブ1]の登録データの『データ名』のフィールドには[タブ群2]が設定されている。図6に示す[タブ1]における登録データの『データ種類』のフィールドには[タブ]が設定されている。これにより、タブ61B（[タブ1]）が属しているタブ群（第1のタブ群）と、[タブ群2]によって特定されるタブ群（第2のタブ群）とが関係付けられることになる。そして、第1のタブ群が上位階層のタブ群となり、[タブ群2]によ

って特定される第2のタブ群が下位階層のタブ群となる。また、上述したように、第1のタブ群は、情報処理装置1の起動後において、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に最初に表示されるタブ群である。したがって、第1のタブ群は、最上位階層のタブ群となる。このように、登録データの『データ種類』のフィールドに「タブ」を設定し、登録データの『データ名』のフィールドに下位階層のタブ群の名称（図6においては「タブ群2」）を設定することにより、オブジェクト表示領域6に表示されるタブ61は階層構造となる。オブジェクト表示領域6に表示されるタブ61を階層構造とすることにより、オブジェクト表示領域6に表示されるタブ61を選択した場合、オブジェクト表示領域6には新たなタブ61が表示されることになる。情報処理装置1の操作者は、オブジェクト表示領域6に表示された新たなタブ61を選択することが可能となる。

[0037] 図6に示す属性データの『タブ番号』の各フィールドには、タブ60、タブ61Aー61Dを識別するための重複の無い一意の番号が定義されている。図6に示す属性データの『呼び出しカウンタ』の各フィールドには、オブジェクト表示領域6に表示されたタブ61Aー61Dが選択された回数が記憶される。

[0038] 図6に示す属性データの『固定優先順位』の各フィールドには、タブ61Aー61Dの優先順位が定義されている。属性データの『固定優先順位』の各フィールドに設定される優先順位の値は、任意に変更可能である。例えば、オブジェクト表示領域6に表示されたタブ61Bー61Dに対して接触操作が行われた場合、接触操作が行われたタブ61Bー61Dの中で最も優先順位が高いタブ61Bが選択される。なお、画面表示部5のオブジェクト表示領域6の上側から下側に向かって、優先順位の高い順にタブ61を表示するようにしてもよい。又は、画面表示部5のオブジェクト表示領域6の下側から上側に向かって、優先順位の高い順にタブ61を表示するようにしてもよい。

[0039] 図6に示す属性データの『タブデザイン1』の各フィールドには、通常時

（選択される前）のタブ６０、タブ６１Ａ－６１Ｄが画面表示部５に表示される際のデザインが指定されている。図６に示す例では、属性データの『タブデザイン１』の各フィールドに、通常時のタブ６０、６１Ａ－６１Ｄのデザインデータが格納されたファイルの番号が設定されている。ただし、属性データの『タブデザイン１』の各フィールドに、通常時のタブ６０、６１Ａ－６１Ｄのデザインデータを直接登録してもよい。

[0040] 図６に示す属性データの『タブデザイン２』の各フィールドには、選択後のタブ６０、タブ６１Ａ－６１Ｄが画面表示部５に表示される際のデザインが指定されている。図６に示す例では、属性データの『タブデザイン２』の各フィールドに、選択後のタブ６０、６１Ａ－６１Ｄのデザインデータが格納されたファイルの番号が設定されている。ただし、属性データの『タブデザイン２』の各フィールドに、選択後のタブ６０、６１Ａ－６１Ｄのデザインデータを直接登録してもよい。

[0041] 通常時のタブ６１のデザインと選択後のタブ６１のデザインとが異なることによって、操作者は、タブ６１が選択されたことを認識することができる。例えば、通常時のタブ６１のデザインと選択後のタブ６１のデザインとを異なるようにする例として、以下の（１）－（４）を採用してもよい。（１）通常時のタブ６１の表示サイズと、選択後のタブ６１の表示サイズとが異なるようにする。例えば、通常時のタブ６１の表示サイズよりも、選択後のタブ６１の表示サイズを大きくする。（２）通常時のタブ６１の色と、選択後のタブ６１の色とが異なるようにする。例えば、通常時のタブ６１の色に対して、選択後のタブ６１の色を反転させる。（３）通常時のタブ６１の表示を点滅させないようにし、選択後のタブ６１の表示を点滅させるようにする。（４）通常時のタブ６１を静止させた状態で画面表示部５に表示し、アニメーションによって選択時のタブ６１が動いている状態で画面表示部５に表示する。上記（１）－（４）の何れか一つ又は上記（１）－（４）の組み合わせによって、通常時のタブ６１と選択後のタブ６１とを画面表示部５に表示してもよい。また、選択されていないタブ６１を目立たないようにして

、選択後のタブ61と選択されていないタブ61とを画面表示部5に表示するようにしてもよい。

[0042] 図6に示す[タブ0]の登録データの『データ名』のフィールドには、第1のタブ群(タブ60、61A-61D)の名称である[デフォルト]が設定されている。図6に示す[タブ1][タブ2][タブ3][タブ4]の登録データの『データ名』の各フィールドには、選択後のタブ61A-61Dの名称が設定されている。例えば、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61Bが選択された場合、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に、〈ブラウザ〉が表記されたタブ61Bが表示される(図3参照)。

[0043] 図6に示す登録データの『データ種類』の各フィールドには、実行される制御処理の種類が定義されている。画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されるタブ60は、システム予約の特別タブのうちの一つである。そのため、図6に示す[タブ0]の登録データの『データ種類』のフィールドには、[システム]が設定されている。

[0044] 図6に示す登録データの『プログラム』の各フィールドには、プログラムの名称が定義されている。図6に示す登録データの『起動オプション』の各フィールドには、プログラムの起動オプションに関する情報が設定されている。

[0045] 図7は、第1のタブ群の下位階層の第2のタブ群の属性データ及び登録データを示す図である。図7に示す『タブのデータ項目』の[タブ0][タブ2-1][タブ2-2][タブ2-3][タブ2-4]の列に、第2のタブ群の属性データ及び登録データのレコードが作成されている。図7に示す[タブ0]の登録データの『データ名』のフィールドには、第2のタブ群の名称である[仕事関係]が設定されている。

[0046] 登録データの『データ種類』については、「タブ」、「画像」、「テキスト」、「音声」、「プログラム」、「システム」、「パスワードでロックされているデータ」、「指紋認証処理でロックされているデータ」を例として

挙げることができる。登録データの『データ種類』のフィールドに「タブ」が設定される場合、属性データの『制御処理』のフィールドには「開く」が設定される。登録データの『データ種類』のフィールドに「画像」又は「テキスト」が設定される場合、属性データの『制御処理』のフィールドには「編集」又は「表示」が設定される。登録データの『データ種類』のフィールドに「音声」が設定される場合、属性データの『制御処理』のフィールドには「再生」が設定される。登録データの『データ種類』のフィールドに「システム」が設定される場合、属性データの『制御処理』のフィールドには「開く」、「設定」又は「閉じる」が設定される。登録データの『データ種類』のフィールドに「パスワードでロックされているデータ」が設定される場合、属性データの『制御処理』のフィールドには「パスワード」が設定される。登録データの『データ種類』のフィールドに「指紋認証処理でロックされているデータ」が設定される場合、属性データの『制御処理』のフィールドには「指紋認証」が設定される。

[0047] <処理フロー>

図8及び図9に、実施例1に係るオブジェクト選択確定処理を例示する。情報処理装置1のCPU20は、メインメモリ22に実行可能に展開されたコンピュータプログラムによりオブジェクト選択確定処理を実行する。

[0048] 図8及び図9に示す処理フローは、情報処理装置1が起動されることにより開始される。例えば、筐体2に設けられている起動ボタンが押下されることにより、情報処理装置1が起動される。まず、図8のS101において、表示部12は、画面表示部5の画面を初期化し、画面表示部5のオブジェクト表示領域6にタブ60、61A-61Dを表示する。また、表示部12は、必要に応じて、画面表示部5の画面を初期化せずに、画面表示部5のオブジェクト表示領域6にタブ60、61A-61Dを表示してもよい。図8及び図9に示す処理フローにおいては、情報処理装置1の起動後、図2のように、画面表示部5のオブジェクト表示領域6にタブ60、61A-61Dが表示される場合の例を用いて説明する。

[0049] 次に、図8のS102において、制御部10は、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択されたか否かを判定する。すなわち、制御部10は、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61に対して接触操作が行われたか否かを判定する。画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択された場合（図8のS102：YES）、処理が図8のS103に進む。一方、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択されていない場合（図8のS102：NO）、処理が図9のS109に進む。図9のS109以降の処理については、後述する。

[0050] 図8のS103において、表示部12は、選択されたタブ61の表示状態を変更する。なお、画面表示部5のオブジェクト表示領域6に表示された複数のタブ61に対して接触操作が行われた場合、制御部10は、所定の基準に従って、接触操作が行われた複数のタブ61のうちの一つを、選択されたタブ61として決定する。所定の基準に従った決定方法として、以下を例示することができる。

[0051] 制御部10は、属性データの『固定優先順位』の各フィールドの値を参照し、最も大きい値が設定されているタブ61を、選択されたタブ61として決定する。属性データの『固定優先順位』の各フィールドの値に差がない場合、制御部10は、属性データの『呼び出しカウンタ』の各フィールドの値を参照し、最も大きい値のタブ61を、選択されたタブ61として決定する。すなわち、制御部10は、選択された回数が最も多いタブ61を、選択されたタブ61として決定する。

[0052] 属性データの『呼び出しカウンタ』の各フィールドの値に差がない場合、制御部10は、属性データの『タブ番号』の各フィールドの値を参照し、最も小さい番号が設定されているタブ61を、選択されたタブ61として決定する。ただし、制御部10は、属性データの『固定優先順位』の各フィールドの値を参照せずに、属性データの『呼び出しカウンタ』の各フィールドの値及び属性データの『タブ番号』の各フィールドの値を参照してタブ61を

決定してもよい。また、制御部 10 は、属性データの『固定優先順位』の各フィールドの値及び属性データの『呼び出しカウンタ』の各フィールドの値を参照せずに、属性データの『タブ番号』の各フィールドの値を参照してタブ 61 を決定してもよい。

[0053] 図 10 及び図 11 は、選択されたタブ 61 の表示状態が変更された場合の画面表示部 5 を示す図である。図 10 は、タブ 61 B が選択され、タブ 61 B の表示状態が変更された状態を示している。図 10 に示すように、タブ 61 B の横幅を、タブ 61 A、61 C 及び 61 D の横幅よりも大きくすることにより、タブ 61 B の表示状態が変更されている。図 6 を用いて説明したように、選択されたタブ 61 B（[タブ 2]）の登録データの『データ名』のフィールドには、[ブラウザ]が設定されている。したがって、図 10 に示すように、選択されたタブ 61 B の名称が、[タブ 2]から[ブラウザ]に変更されている。

[0054] 図 11 は、タブ 61 A が選択され、タブ 61 A の表示状態が変更された状態を示している。図 11 に示すように、タブ 61 A の横幅を、タブ 61 B、61 C 及び 61 D の横幅よりも大きくすることにより、タブ 61 A の表示状態が変更されている。図 6 を用いて説明したように、選択されたタブ 61 A（[タブ 1]）の登録データの『データ名』のフィールドには、[タブ群 2]が設定されている。登録データの『データ名』のフィールドに、下位階層のタブ群（第 2 のタブ群）を特定する情報（図 6 においては [タブ群 2]）が設定されている場合、図 11 に示すように、選択されたタブ 61 A の名称が、[タブ 2] から第 2 のタブ群の名称である [仕事関係]に変更される。

[0055] 図 8 の処理フローの説明に戻る。図 8 の S104 において、制御部 10 は、選択されたタブ 61 の属性データの『制御方法』のフィールドに「フリー」が設定されているか否かを判定する。選択されたタブ 61 の属性データの『制御方法』のフィールドに「フリー」が設定されている場合（図 8 の S104：YES）、処理が図 8 の S105 に進む。一方、選択されたタブ 61 の属性データの『制御方法』のフィールドに「フリー」が設定されていない

場合（図8のS104：NO）、処理が図8のS106に進む。

[0056] 図8のS105において、制御部10は、選択されたタブ61の属性データ及び登録データに基づいて、選択されたタブ61に応じた制御処理を実行する。なお、選択されたタブ61の登録データの『データ種類』が[タブ]である場合、図12に示すように、オブジェクト表示領域6には、タブ61A-61Dに替わってタブ61E-61Hが新たに表示される。ただし、オブジェクト表示領域6のタブ61A-61Dに加えて、タブ61E-61Hをオブジェクト表示領域6に新たに表示するようにしてもよい。制御部10による制御処理の実行が終了すると、処理が図8のS101に進む。

[0057] 次に、図8のS106において、表示部12は、選択されたタブ61の属性データの『制御処理』に設定されている名称を、画面表示部5のスライド検出領域7に表示する。例えば、図3に示したように、選択されたタブ61の属性データの『制御処理』に設定されている[起動]が、画面表示部5のスライド検出領域7に表示される。

[0058] そして、図8のS107において、制御部10は、画面表示部5のスライド検出領域7でスライド操作が行われたか否かを判定する。画面表示部5のスライド検出領域7でスライド操作が行われた場合（図8のS107：YES）、処理が図8のS105に進む。図13は、画面表示部5のスライド検出領域7に表示された[起動]に対してスライド操作が行われた状態を示している。画面表示部5のスライド検出領域7に表示された制御処理の名称に対してスライド操作が行われることにより、選択されたタブ61に応じた制御処理が確定する。すなわち、選択されたタブ61に応じて実行される制御処理が確定する。一方、画面表示部5のスライド検出領域7でスライド操作が行われていない場合（図8のS107：NO）、処理が図8のS108に進む。

[0059] 次に、図8のS108において、制御部10は、タブ61の選択が解除されたか否かを判定する。例えば、タブ61Bが選択されている状態で、タブ61A、61C又は61Dのいずれかに対して接触操作が行われた場合、制

制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたと判定してもよい。また、例えば、タブ 61 B に接触して居た指が離された場合、制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたと判定してもよい。タブ 61 の選択が解除された場合（図 8 の S 108 : YES）、処理が図 8 の S 101 に進む。一方、タブ 61 の選択が解除されていない場合（図 8 の S 108 : NO）、処理が図 8 の S 107 に進む。

[0060] 次に、図 9 の S 109 以降の処理について説明する。図 9 の S 109 において、制御部 10 は、情報処理装置 1 に対する無操作状態が所定期間経過したか否かを判定する。所定時間は、任意の値を設定することができる。情報処理装置 1 に対する無操作状態が所定期間経過した場合（図 9 の S 109 : YES）、処理が図 9 の S 110 に進む。一方、情報処理装置 1 に対する無操作状態が所定期間経過していない場合（図 9 の S 109 : NO）、処理が図 8 の S 102 に進む。

[0061] 図 9 の S 110 において、表示部 12 は、画面表示部 5 に表示されている画面を消すとともに、画面表示部 5 のバックライトを消灯する。画面表示部 5 が電子ペーパーを利用している場合、表示部 12 は、画面表示部 5 の表示を保持する。

[0062] 図 9 の S 111 において、制御部 10 は、特定の操作が行われたか否かを判定する。特定の操作は、例えば、画面表示部 5 に対する接触操作又は筐体 2 に設けられている起動ボタンの押下操作などの情報処理装置 1 に対する何らかの操作である。特定の操作が行われた場合（図 9 の S 111 : YES）、処理が図 8 の S 101 に進む。一方、特定の操作が行われていない場合（図 9 の S 111 : NO）、処理が図 9 の S 111 に進む。すなわち、特定の操作が行われるまで、制御部 10 は、図 9 の S 111 の処理を繰り返す。

[0063] 実施例 1 に係る情報処理装置 1 では、画面表示部 5 の左端部にオブジェクト表示領域 6 を配置する例を示した。しかし、これに限定されず、本実施形態に係る情報処理装置 1 では、画面表示部 5 の右端部にオブジェクト表示領域 6 を配置するようにしてもよい。この場合、画面表示部 5 の左端部及び下

端部にスライド検出領域 7 を配置するようにしてもよい。画面表示部 5 の右端部にオブジェクト表示領域 6 が配置されている場合、操作者は、情報処理装置 1 を右手で持ちつつ、右手の指で画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されるオブジェクトの選択を行うことが可能である。

[0064] 実施例 1 に係る情報処理装置 1 によれば、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 が選択（指定）された場合、タブ 6 1 に応じた制御処理が、画面表示部 5 のスライド検出領域 7 に表示される。そして、画面表示部 5 のスライド検出領域 7 に表示された制御処理に対してスライド操作が行われることにより、選択されたタブ 6 1 に応じた制御処理が確定（指示）され、制御部 10 は、選択されたタブ 6 1 に応じた制御処理を実行する。

[0065] したがって、誤操作によって画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 が選択された場合であっても、選択されたタブ 6 1 に応じた制御処理が直ちに実行されることを抑止できる。例えば、秘密情報やプライバシー情報の閲覧を可能にする制御処理の起動タブが誤操作によって選択された場合であっても、画面表示部 5 に秘密情報やプライバシー情報が直ちに表示されることを抑止できる。また、例えば、起動させる必要のないプログラムの起動タブが誤操作によって選択された場合であっても、起動させる必要のないプログラムが直ちに実行されることを抑止できる。その結果、起動させる必要のないプログラムの起動時間の削減が可能となり、無駄なメモリ領域の消費を抑制することができる。

[0066] 操作者は、画面表示部 5 のスライド検出領域 7 に表示された制御処理に対してスライド操作を行うまでは、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 の選択を解除することができる。したがって、誤操作によって画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 が選択された場合であっても、操作者は、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 の選択をやり直すことができる。

[0067] 実施例 1 に係る情報処理装置 1 によれば、画面表示部 5 のオブジェクト表

示領域 6 に表示された複数のタブ 6 1 に対して接触操作が行われた場合、所定の基準に従って、接触操作が行われた複数のタブ 6 1 のうちの 하나가、選択されたタブ 6 1 として決定される。したがって、接触操作が行われた複数のタブ 6 1 のうちの 하나を、選択されたタブ 6 1 として決定することにより、画面表示部 5 のオブジェクト表示領域 6 に表示された複数のタブ 6 1 が選択されることを抑止することができる。

実施例 2

- [0068] 以下、図 1 4 から図 2 0 を参照して、実施例 2 に係る情報処理装置 1 を説明する。図 1 4 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 の外観図である。実施例 2 に係る情報処理装置 1 は、持ち運び可能な筐体内に処理部を備え、筐体の内側面に画面表示部が設置され、筐体の中央部分で折り畳むことが可能な装置であり、携帯型情報処理装置とも呼ばれる。情報処理装置 1 は、例えば、電子手帳、PDA (Personal Digital Assistance)、スマートフォン、タブレット装置、携帯電話、電子ブック等である。
- [0069] 図 1 4 に示すように、情報処理装置 1 は、筐体 2 A の内側面にディスプレイ部 3 A とタッチパネル部 4 A とが一体化された画面表示部 5 A が設けられており、筐体 2 B の内側面にディスプレイ部 3 B とタッチパネル部 4 B とが一体化された画面表示部 5 B が設けられている。画面表示部 5 A は、ディスプレイ部 3 A 及びタッチパネル部 4 A を有しているので、図 1 4 において、ディスプレイ部 3 A 及びタッチパネル部 4 A の符号を () 内に示した。また、画面表示部 5 B は、ディスプレイ部 3 B 及びタッチパネル部 4 B を有しているので、図 1 4 においては、ディスプレイ部 3 B 及びタッチパネル部 4 B の符号を () 内に示した。
- [0070] 図 1 4 に示すように、情報処理装置 1 は、筐体 2 A と筐体 2 B とを連結し、筐体 2 A と筐体 2 B との連結部分を軸として筐体 2 A 及び筐体 2 B を回動可能にする折り畳み部 3 0 を有している。折り畳み部 3 0 は、連結機構の一例である。操作者は、筐体 2 A 及び筐体 2 B の一方又は両方を回動させ、筐体 2 A の内側面と筐体 2 A の内側面とを重ね合わせる操作を行うことにより

、情報処理装置 1 を閉じることが可能である。実施例 2 では、筐体 2 A 及び筐体 2 B の一方又は両方を回動させ、筐体 2 A の内側面と筐体 2 A の内側面とを重ね合わせる操作を、情報処理装置 1 を閉じる操作と表記する。また、実施例 2 では、筐体 2 A の内側面と筐体 2 A の内側面とを重ね合わせた状態を、情報処理装置 1 が閉じた状態と表記する。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態から筐体 2 A 及び筐体 2 B の一方又は両方を回動させ、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とを引き離す操作を行うことにより、情報処理装置 1 を開くことが可能である。実施例 2 では、情報処理装置 1 が閉じた状態から筐体 2 A 及び筐体 2 B の一方又は両方を回動させ、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とを引き離す操作を、情報処理装置 1 を開く操作と表記する。また、実施例 2 では、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが離れた状態を、情報処理装置 1 が開いた状態と表記する。

[0071] ディスプレイ部 3 A 及び 3 B の画面には、オブジェクト、画像及び文字等が表示される。オブジェクトは、例えば、タブ、タグ、アイコン、ボタン及びメニュー等である。タッチパネル部 4 A 及び 4 B の表面では、ディスプレイ部 3 A 及び 3 B の画面に表示された画像や文字等に対して指又はペン等による接触が行われる。

[0072] 図 1 4 に示すように、操作者から見て、画面表示部 5 A が左に位置し、画面表示部 5 B が右に位置する場合、画面表示部 5 A の左端部にオブジェクト表示領域 6 が配置される。また、図 1 4 に示すように、操作者から見て、画面表示部 5 A が左に位置し、画面表示部 5 B が右に位置する場合、画面表示部 5 A の下端部、画面表示部 5 B の右端部及び下端部にスライド検出領域 7 が配置される。更に、図 1 4 に示すように、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 には、タブ 6 0 及びタブ 6 1 A－6 1 D が表示される。オブジェクト表示領域 6、スライド検出領域 7、タブ 6 0 及びタブ 6 1 A－6 1 D は、実施例 1 と同様であり、その説明を省略する。

[0073] 図 1 5 A 及び図 1 5 B は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 が閉じた状態における情報処理装置 1 の外観図である。図 1 5 A 及び図 1 5 B に示すように

、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが重ね合わされており、情報処理装置 1 が閉じた状態となっている。情報処理装置 1 は、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが同じ大きさになっており、画面表示部 5 A と画面表示部 5 B とが同じ大きさになっている。そのため、情報処理装置 1 が閉じた状態では、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 は筐体 2 B 及び画面表示部 5 B によって覆われており、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択ができない。

[0074] そこで、実施例 2 に係る情報処理装置 1 では、不図示のスライド機構を備えることにより、情報処理装置 1 が閉じた状態で筐体 2 B をスライド移動させ、画面表示部 5 A の一部を露出させる。すなわち、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが重ね合わさった状態で、折り畳み部 3 0 が配置されている方向に筐体 2 B をスライド移動（平行移動）させることで、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 を露出させる。例えば、図 1 5 B に示すように、筐体 2 A を下側にし、筐体 2 B を上側にして、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが重ね合わさった状態で、折り畳み部 3 0 が配置されている方向に筐体 2 B をスライド移動（平行移動）させることで、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 を露出させてもよい。また、筐体 2 A を下側にし、筐体 2 B を上側にして、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが重ね合わさった状態で、折り畳み部 3 0 が配置されている方向と反対方向に筐体 2 A をスライド移動（平行移動）させることで、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 を露出させてもよい。スライド機構は、例えば、レール部及びレール部を移動するスライダ等であってもよい。筐体 2 A の内側面にレール部を設け、筐体 2 B の内側面にスライダを設けるようにしてもよい。また、筐体 2 A の内側面にスライダを設け、筐体 2 B の内側面にレール部を設けるようにしてもよい。

[0075] したがって、情報処理装置 1 が閉じた状態であっても、画面表示部 5 A の一部を露出させることにより、操作者は、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D に対する接触操作が可能となる。

操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態で、情報処理装置 1 を左手で持ちつつ、左手の指で画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行うことが可能である。操作者は、右手の指で画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行ってもよい。操作者は、情報処理装置 1 が開いた状態で、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行ってもよい。

[0076] なお、情報処理装置 1 は、筐体 2 A 及び筐体 2 B をスライド移動させないようにしてもよい。スライド移動しない筐体 2 A 及び筐体 2 B を備える情報処理装置 1 においては、情報処理装置 1 を開いた状態にすることにより、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択が可能となる。

[0077] <情報処理装置の機能構成>

図 1 6 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 の機能ブロック図である。図 1 6 に示すように、情報処理装置 1 は、ディスプレイ部 3 A、3 B、タッチパネル部 4 A、4 B、制御部 1 0、記憶部 1 1、表示部 1 2、入力部 1 3、開閉検知部 4 0 及び筐体移動検知部 4 1 を有している。実施例 2 に係る情報処理装置 1 は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 と比較して、ディスプレイ部 3 に替えてディスプレイ部 3 A 及び 3 B を有し、タッチパネル部 4 に替えてタッチパネル部 4 A 及び 4 B を有し、開閉検知部 4 0 及び筐体移動検知部 4 1 を更に有する点が異なっている。そこで、実施例 2 に係る情報処理装置 1 については、実施例 1 に係る情報処理装置 1 と異なる点について説明し、実施例 1 に係る情報処理装置 1 と共通する点については説明を省略する。

[0078] ディスプレイ部 3 A 及び 3 B の画面には、オブジェクト、画像及び文字等が表示される。タッチパネル部 4 A 及び 4 B では、指又はペン等によってタッチパネル部 4 A 及び 4 B の表面に対する接触操作が行われ、タッチパネル部 4 A 及び 4 B の表面に対する接触操作を検出する。開閉検知部 4 0 は、情報処理装置 1 の開閉を検知し、入力部 1 3 を介して、制御部 1 0 に情報処理

装置 1 の開閉に関する信号を入力する。筐体移動検知部 4 1 は、筐体 2 B のスライド移動を検知し、入力部 1 3 を介して、制御部 1 0 に筐体 2 B のスライド移動に関する信号を入力する。

[0079] <情報処理装置のハードウェア構成>

図 1 7 は、実施例 2 に係る情報処理装置 1 のハードウェア構成を示す図である。図 1 7 に示すように、情報処理装置 1 は、CPU 2 0、メモリコントローラ 2 1、メインメモリ 2 2、ビデオカード 2 3、ディスプレイ 2 4、I/O コントローラ 2 5、タッチパネル 2 6、ディスクコントローラ 2 7、記憶ディスク装置 2 8、開閉検知器 5 0 及び筐体移動検知器 5 1 を有している。実施例 2 に係る情報処理装置 1 は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 と比較して、開閉検知器 5 0 及び筐体移動検知器 5 1 を更に有する点が異なっている。そこで、実施例 2 に係る情報処理装置 1 については、実施例 1 に係る情報処理装置 1 と異なる点について説明し、実施例 1 に係る情報処理装置 1 と共通する点については説明を省略する。

[0080] 開閉検知器 5 0 は、情報処理装置 1 の開閉を検知し、I/O コントローラ 2 5 を介して、CPU 2 0 に情報処理装置 1 の開閉に関する信号を入力する。筐体移動検知器 5 1 は、筐体 2 B のスライド移動を検知し、I/O コントローラ 2 5 を介して、CPU 2 0 に筐体 2 B のスライド移動に関する信号を入力する。開閉検知器 5 0 及び筐体移動検知器 5 1 は、例えば、筐体 2 A に設けられた磁気センサ（例えば、ホール IC）及び筐体 2 B に設けられた磁石である。筐体 2 A に設けられた磁気センサが磁界の変化を検出することにより、開閉検知器 5 0 は、情報処理装置 1 の開閉を検知し、筐体移動検知器 5 1 は、筐体 2 A 又は筐体 2 B のスライド移動を検知する。

[0081] <処理フロー>

図 1 8 及び図 1 9 に、実施例 2 に係るオブジェクト選択確定処理を例示する。情報処理装置 1 の CPU 2 0 は、メインメモリ 2 2 に実行可能に展開されたコンピュータプログラムによりオブジェクト選択確定処理を実行する。

[0082] 図 1 8 及び図 1 9 に示す処理フローは、情報処理装置 1 が起動されること

により開始される。例えば、筐体 2 A に設けられている起動ボタンが押下されることにより、情報処理装置 1 が起動される。まず、図 18 の S 201 において、制御部 10 は、情報処理装置 1 が開いた状態であるか否かを判定する。情報処理装置 1 が開いた状態である場合（図 18 の S 201 : YES）、処理が図 8 の S 101 に進む。情報処理装置 1 が開いた状態である場合、実施例 2 に係るオブジェクト選択確定処理は、実施例 1 に係るオブジェクト選択確定処理と同じ処理が行われる。実施例 1 に係るオブジェクト選択確定処理は、図 8 及び図 9 を用いて既に説明したので、ここではその説明を省略する。

[0083] 一方、情報処理装置 1 が開いた状態でない場合（図 18 の S 201 : NO）、処理が図 18 の S 202 に進む。次に、図 18 の S 202 において、制御部 10 は、筐体 2 A 及び筐体 2 B の少なくとも一方がスライド移動可能であるか否かを判定する。筐体 2 A 及び筐体 2 B の少なくとも一方がスライド移動可能である場合（図 18 の S 202 : YES）、処理が図 18 の S 203 に進む。一方、筐体 2 A 及び筐体 2 B の少なくとも一方がスライド移動可能ではない場合（図 18 の S 202 : NO）、処理が図 18 の S 201 に進む。

[0084] そして、図 18 の S 203 において、制御部 10 は、筐体 2 A 及び筐体 2 B の少なくとも一方がスライド移動しているか否かを判定する。筐体 2 A 及び筐体 2 B の少なくとも一方がスライド移動している場合（図 18 の S 203 : YES）、処理が図 18 の S 204 に進む。一方、筐体 2 A 及び筐体 2 B の少なくとも一方がスライド移動していない場合（図 18 の S 203 : NO）、処理が図 18 の S 201 に進む。

[0085] 次いで、図 18 の S 204 において、表示部 12 は、画面表示部 5 A の画面を初期化し、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 にタブ 60、61 A-61 D を表示する。また、表示部 12 は、必要に応じて、画面表示部 5 A の画面を初期化せずに、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 にタブ 60、61 A-61 D を表示してもよい。図 18 及び図 19 に示す処理フロ

一においては、図 14 のように、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 にタブ 60、61A-61D が表示される場合の例を用いて説明する。

[0086] 次に、図 18 の S205 において、制御部 10 は、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 61 が選択されたか否かを判定する。すなわち、制御部 10 は、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 61 に対して接触操作が行われたか否かを判定する。画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 61 が選択された場合（図 18 の S205：YES）、処理が図 18 の S206 に進む。一方、画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 61 が選択されていない場合（図 18 の S205：NO）、処理が図 19 の S210 に進む。図 19 の S210 以降の処理については、後述する。

[0087] そして、図 18 の S206 において、表示部 12 は、選択されたタブ 61 の表示状態を変更する。図 18 の S206 の処理は、図 8 の S103 の処理と同様であるので、図 18 の S206 の処理の詳細な説明は省略する。次いで、図 18 の S207 において、制御部 10 は、情報処理装置 1 が開いた状態であるか否かを判定する。情報処理装置 1 が開いた状態である場合（図 18 の S207：YES）、処理が図 18 の S208 に進む。一方、情報処理装置 1 が開いた状態でない場合（図 18 の S207：NO）、処理が図 18 の S209 に進む。

[0088] 次に、図 18 の S208 において、制御部 10 は、選択されたタブ 61 の属性データ及び登録データに基づいて、選択されたタブ 61 に応じた制御処理を実行する。制御部 10 による制御処理の実行が終了すると、処理が図 18 の S201 に進む。

[0089] 次いで、図 18 の S209 において、制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたか否かを判定する。例えば、タブ 61B が選択されている状態で、タブ 61A、61C 又は 61D のいずれかに対して接触操作が行われた場合、制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたと判定してもよい。また、例えば、タブ 61B に接触して居た指が離された場合、制御部 10 は、タブ 6

１の選択が解除されたと判定してもよい。タブ６１の選択が解除された場合（図１８のＳ２０９：ＹＥＳ）、処理が図１８のＳ２０４に進む。一方、タブ６１の選択が解除されていない場合（図１８のＳ２０９：ＮＯ）、処理が図１８のＳ２０７に進む。

[0090] 次に、図１９のＳ２１０以降の処理について説明する。図１９のＳ２１０において、制御部１０は、情報処理装置１に対する無操作状態が所定期間経過したか否かを判定する。所定時間は、任意の値を設定することができる。情報処理装置１に対する無操作状態が所定期間経過した場合（図１９のＳ２１０：ＹＥＳ）、処理が図１９のＳ２１１に進む。一方、情報処理装置１に対する無操作状態が所定期間経過していない場合（図１９のＳ２１０：ＮＯ）、処理が図１８のＳ２０４に進む。

[0091] そして、図１９のＳ２１１において、表示部１２は、画面表示部５Ａに表示されている画面を消すとともに、画面表示部５Ａのバックライトを消灯する。画面表示部５Ａが電子ペーパーを利用している場合、表示部１２は、画面表示部５Ａの表示を保持する。

[0092] 図１９のＳ２１２において、制御部１０は、特定の操作が行われたか否かを判定する。特定の操作は、例えば、画面表示部５Ａに対する接触操作又は筐体２Ａに設けられている起動ボタンの押下操作などの情報処理装置１に対する何らかの操作である。特定の操作が行われた場合（図１９のＳ２１２：ＹＥＳ）、処理が図１９のＳ２０１に進む。一方、特定の操作が行われていない場合（図１９のＳ２１２：ＮＯ）、処理が図１９のＳ２１２に進む。すなわち、特定の操作が行われるまで、制御部１０は、図１９のＳ２１２の処理を繰り返す。

[0093] 実施例２においては、操作者から見て、画面表示部５Ａが右に位置し、画面表示部５Ｂが左に位置するようにして、情報処理装置１が使用されてもよい。すなわち、図１４に示す画面表示部５Ａの位置と画面表示部５Ｂの位置とが入れ替わるように情報処理装置１が１８０度回転した状態で、情報処理装置１が使用されてもよい。操作者から見て、画面表示部５Ａが右に位置し

、画面表示部 5 B が左に位置する場合、画面表示部 5 A の右端部にオブジェクト表示領域 6 が配置され、画面表示部 5 A の下端部、画面表示部 5 B の左端部及び下端部にスライド検出領域 7 が配置されてもよい。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態で、情報処理装置 1 を右手で持ちつつ、右手の指で画面表示部 5 A のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行うことが可能である。

[0094] 実施例 2 に係る情報処理装置 1 では、筐体 2 A の内側面に画面表示部 5 A を設け、筐体 2 B の内側面に画面表示部 5 B を設ける例を示した。しかし、これに限定されず、実施例 2 に係る情報処理装置 1 において、筐体 2 A の内側面に画面表示部 5 A を設け、筐体 2 B の内側面に画面表示部 5 B を設けないようにしてもよい。

[0095] 実施例 2 に係る情報処理装置 1 では、画面表示部 5 A にオブジェクト表示領域 6 を配置する例を示した。しかし、これに限定されず、実施例 2 に係る情報処理装置 1 において、画面表示部 5 B の右端部にオブジェクト表示領域 6 を配置するようにしてもよい。例えば、図 20 に示すように、筐体 2 A を上側にし、筐体 2 B を下側にして、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが重ね合わさった状態で、折り畳み部 30 が配置されている方向に筐体 2 A をスライド移動（平行移動）させることで、画面表示部 5 B のオブジェクト表示領域 6 を露出させてもよい。また、筐体 2 A を上側にし、筐体 2 B を下側にして、筐体 2 A の内側面と筐体 2 B の内側面とが重ね合わさった状態で、折り畳み部 30 が配置されている方向と反対方向に筐体 2 B をスライド移動（平行移動）させることで、画面表示部 5 B のオブジェクト表示領域 6 を露出させてもよい。

[0096] したがって、情報処理装置 1 が閉じた状態であっても、画面表示部 5 B の一部を露出させることにより、画面表示部 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D に対する接触操作が可能となる。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態で、情報処理装置 1 を右手で持ちつつ、右手の指で画面表示部 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6

1 Dの選択を行うことが可能である。操作者は、左手の指で画面表示部 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 Dの選択を行ってもよい。操作者は、情報処理装置 1 が開いた状態で、画面表示部 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 Dの選択を行ってもよい。また、実施例 2 に係る情報処理装置 1 において、筐体 2 B の内側面に画面表示部 5 B を設け、筐体 2 A の内側面に画面表示部 5 A を設けないようにしてもよい。

[0097] 実施例 2 に係る情報処理装置 1 によれば、画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 が選択（指定）された後、情報処理装置 1 を開く操作が行われることにより、タブ 6 1 に応じた制御処理が確定（指示）され、制御部 1 0 は、タブ 6 1 に応じた制御処理を実行する。

[0098] したがって、誤操作によって画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 が選択された場合であっても、タブ 6 1 に応じた制御処理が直ちに実行されることを抑止できる。例えば、秘密情報やプライバシー情報の閲覧を可能にする制御処理の起動タブが誤操作によって選択された場合であっても、画面表示部 5 A 又は 5 B に秘密情報やプライバシー情報が直ちに表示されることを抑止できる。また、例えば、起動させる必要のないプログラムの起動タブが誤操作によって選択された場合であっても、起動させる必要のないプログラムが直ちに実行されることを抑止できる。その結果、起動させる必要のないプログラムの起動時間の削減が可能となり、無駄なメモリ領域の消費を抑制することができる。

[0099] 操作者は、画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 を選択した後、情報処理装置 1 を開く操作を行うまでは、画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 の選択を解除することができる。したがって、誤操作によって画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 が選択された場合であっても、操作者は、画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示されたタブ 6 1 の選択をやり直すことができる。

[0100] 実施例 2 に係る情報処理装置 1 によれば、画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示された複数のタブ 6 1 に対して接触操作が行われた場合、所定の基準に従って、接触操作が行われた複数のタブ 6 1 のうちの 하나가、選択されたタブ 6 1 として決定される。したがって、接触操作が行われた複数のタブ 6 1 のうちの 하나を、選択されたタブ 6 1 として決定することにより、画面表示部 5 A 又は 5 B のオブジェクト表示領域 6 に表示された複数のタブ 6 1 が選択されることを抑止することができる。

実施例 3

[0101] 以下、図 2 1 A から図 2 4 に基づいて、実施例 3 に係る情報処理装置 1 を説明する。図 2 1 A 及び図 2 1 B は、実施例 3 に係る情報処理装置 1 の外観図である。実施例 3 に係る情報処理装置 1 は、持ち運び可能な筐体内に処理部を備え、筐体の内側面に画面表示部が設置され、筐体の中央部分で折り畳むことが可能な装置であり、携帯型情報処理装置とも呼ばれる。情報処理装置 1 は、例えば、電子手帳、PDA (Personal Digital Assistance)、スマートフォン、タブレット装置、携帯電話、電子ブック等である。

[0102] 図 2 1 A 及び図 2 1 B に示すように、情報処理装置 1 は、筐体 2 C の内側面にディスプレイ部 3 C とタッチパネル部 4 C とが一体化された画面表示部 5 C が設けられており、筐体 2 D の内側面にディスプレイ部 3 D とタッチパネル部 4 D とが一体化された画面表示部 5 D が設けられている。画面表示部 5 C は、ディスプレイ部 3 C 及びタッチパネル部 4 C を有しているので、図 2 1 A 及び図 2 1 B において、ディスプレイ部 3 C 及びタッチパネル部 4 C の符号を () 内に示した。また、画面表示部 5 D は、ディスプレイ部 3 D 及びタッチパネル部 4 D を有しているので、図 2 1 B において、ディスプレイ部 3 D 及びタッチパネル部 4 D の符号を () 内に示した。

[0103] 図 2 1 A 及び図 2 1 B に示すように、情報処理装置 1 は、筐体 2 C と筐体 2 D とを連結し、筐体 2 C と筐体 2 D との連結部分を軸として筐体 2 C 及び筐体 2 D を回動可能にする折り畳み部 7 0 を有している。折り畳み部 7 0 は、連結機構の一例である。操作者は、筐体 2 C 及び筐体 2 D の一方又は両方

を回動させ、筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とを重ね合わせる操作を行うことにより、情報処理装置 1 を閉じることが可能である。実施例 3 では、筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とを重ね合わせた状態を、情報処理装置 1 が閉じた状態と表記する。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態から筐体 2 C 及び筐体 2 D の一方又は両方を回動させ、筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とを引き離す操作を行うことにより、情報処理装置 1 を開くことが可能である。実施例 3 では、筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とが離れた状態を、情報処理装置 1 が開いた状態と表記する。

[0104] ディスプレイ部 3 C 及び 3 D の画面には、オブジェクト、画像及び文字等が表示される。オブジェクトは、例えば、アイコン、タブ、ボタン及びメニュー等である。タッチパネル部 4 C 及び 4 D の表面では、ディスプレイ部 3 C 及び 3 D の画面に表示された画像や文字等に対して指又はペン等による接触が行われる。

[0105] 図 2 1 B に示すように、操作者から見て、画面表示部 5 C が左に位置し、画面表示部 5 D が右に位置する場合、画面表示部 5 C の左端部にオブジェクト表示領域 6 が配置される。また、図 2 1 B に示すように、操作者から見て、画面表示部 5 C が左に位置し、画面表示部 5 D が右に位置する場合、画面表示部 5 C の下端部、画面表示部 5 D の右端部及び下端部にスライド検出領域 7 が配置される。更に、図 2 1 B に示すように、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 には、タブ 6 0 及びタブ 6 1 A - 6 1 D が表示される。オブジェクト表示領域 6、スライド検出領域 7、タブ 6 0 及びタブ 6 1 A - 6 1 D は、実施例 1 と同様であり、その説明を省略する。

[0106] 筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とが異なる大きさになっており、画面表示部 5 C と画面表示部 5 D とが異なる大きさになっている。具体的には、筐体 2 C の横幅が筐体 2 D の横幅よりも大きくなっており、画面表示部 5 C の横幅が画面表示部 5 D の横幅よりも大きくなっている。そのため、情報処理装置 1 が閉じた状態において、画面表示部 5 C の一部、すなわち、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 が露出することになる。

[0107] 情報処理装置 1 が閉じた状態であっても、画面表示部 5 C の一部が露出し、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A - 6 1 D に対する接触操作が可能となる。したがって、情報処理装置 1 が閉じた状態であっても、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A - 6 1 D の選択が可能となる。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態で、情報処理装置 1 を左手で持ちつつ、左手の指で画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A - 6 1 D の選択を行うことが可能である。操作者は、右手の指で画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A - 6 1 D の選択を行ってもよい。操作者は、情報処理装置 1 が開いた状態で、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A - 6 1 D の選択を行ってもよい。

[0108] 実施例 3 に係る情報処理装置 1 では、不図示のスライド機構を備えることにより、図 2 2 B に示すように、情報処理装置 1 が閉じた状態で筐体 2 D をスライド移動（平行移動）させ、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 が筐体 2 D によって覆われるようにしてもよい。すなわち、筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とが重ね合わさった状態で、折り畳み部 7 0 が配置されている方向と反対方向に筐体 2 D をスライド移動（平行移動）させることで、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 が筐体 2 D によって覆われるようにしてもよい。図 2 2 A は、情報処理装置 1 が閉じた状態において、筐体 2 D をスライド移動させる前の情報処理装置 1 の外観図である。図 2 2 B は、情報処理装置 1 が閉じた状態において、筐体 2 D をスライド移動させた後の情報処理装置 1 の外観図である。画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 が筐体 2 D によって覆われることにより、画面表示部 5 C を筐体 2 D によって保護することが可能となる。スライド機構は、例えば、レール部及びレール部を移動するスライダ等であってもよい。筐体 2 C の内側面にレール部を設け、筐体 2 D の内側面にスライダを設けるようにしてもよい。また、筐体 2 C の内側面にスライダを設け、筐体 2 D の内側面にレール部を設けるようにしてもよい。

[0109] 実施例 3 に係る情報処理装置 1 の機能構成及びハードウェア構成については、実施例 2 に係る情報処理装置 1 の機能構成及びハードウェア構成と同様である。

＜処理フロー＞

図 2 3 及び図 2 4 に、実施例 3 に係るオブジェクト選択確定処理を例示する。情報処理装置 1 の CPU 2 0 は、メインメモリ 2 2 に実行可能に展開されたコンピュータプログラムによりオブジェクト選択確定処理を実行する。

[0110] 図 2 3 及び図 2 4 に示す処理フローは、情報処理装置 1 が起動されることにより開始される。例えば、筐体 2 C に設けられている起動ボタンが押下されることにより、情報処理装置 1 が起動される。まず、図 2 3 の S 3 0 1 において、制御部 1 0 は、情報処理装置 1 が開いた状態であるか否かを判定する。情報処理装置 1 が開いた状態である場合（図 2 3 の S 3 0 1 : YES）、処理が図 8 の S 1 0 1 に進む。情報処理装置 1 が開いた状態である場合、実施例 3 に係る情報処理装置 1 で実行されるオブジェクト選択確定処理は、実施例 1 に係る情報処理装置 1 で実行されるオブジェクト選択確定処理と同じ処理が行われる。実施例 1 に係る情報処理装置 1 で実行されるオブジェクト選択確定処理は、図 8 及び図 9 を用いて既に説明したので、ここではその説明を省略する。

[0111] 一方、情報処理装置 1 が開いた状態でない場合（図 2 3 の S 3 0 1 : NO）、処理が図 2 3 の S 3 0 2 に進む。次に、図 2 3 の S 3 0 2 において、制御部 1 0 は、筐体 2 C がスライド移動可能であるか否かを判定する。筐体 2 C がスライド移動可能である場合（図 2 3 の S 3 0 2 : YES）、処理が図 2 3 の S 3 0 3 に進む。一方、筐体 2 C がスライド移動可能ではない場合（図 2 3 の S 3 0 2 : NO）、処理が図 2 3 の S 3 0 4 に進む。

[0112] そして、図 2 3 の S 3 0 3 において、制御部 1 0 は、筐体 2 C がスライド移動しているか否かを判定する。すなわち、制御部 1 0 は、筐体 2 C がスライド移動することにより、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 が筐体 2 C によって覆われているか否かを判定する。筐体 2 C がスライド移動して

いる場合（図23のS303：YES）、処理が図23のS301に進む。筐体2Cがスライド移動している場合は、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6が筐体2Cによって覆われている状態である。そのため、処理が図23のS301に進み、制御部10は、情報処理装置1が開いた状態であるか否かの判定を行うことになる。

[0113] 一方、筐体2Cがスライド移動していない場合（図23のS303：NO）、処理が図23のS304に進む。筐体2Cがスライド移動していない場合は、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6が筐体2Cによって覆われていない状態である。次いで、図23のS304において、表示部12は、画面表示部5Cの画面を初期化し、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6にタブ60、61A－61Dを表示する。また、表示部12は、必要に応じて、画面表示部5Cの画面を初期化せずに、画面表示部5のオブジェクト表示領域6にタブ60、61A－61Dを表示してもよい。図23及び図24に示す処理フローにおいては、図21Aのように、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6にタブ60、61A－61Dが表示される場合の例を用いて説明する。

[0114] 次に、図23のS305において、制御部10は、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択されたか否かを判定する。すなわち、制御部10は、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61に対して接触操作が行われたか否かを判定する。画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択された場合（図23のS305：YES）、処理が図23のS306に進む。一方、画面表示部5Cのオブジェクト表示領域6に表示されたタブ61が選択されていない場合（図23のS305：NO）、処理が図24のS310に進む。図24のS310以降の処理については、後述する。

[0115] そして、図23のS306において、表示部12は、選択されたタブ61の表示状態を変更する。図23のS306の処理は、図8のS103の処理と同様であるので、図23のS306の処理の詳細な説明は省略する。次い

で、図 23 の S 307 において、制御部 10 は、情報処理装置 1 が開いた状態であるか否かを判定する。情報処理装置 1 が開いた状態である場合（図 23 の S 307 : YES）、処理が図 23 の S 308 に進む。一方、情報処理装置 1 が開いた状態でない場合（図 23 の S 307 : NO）、処理が図 23 の S 309 に進む。

[0116] 次に、図 23 の S 308 において、制御部 10 は、選択されたタブ 61 の属性データ及び登録データに基づいて、選択されたタブ 61 に応じた制御処理を実行する。制御部 10 による制御処理の実行が終了すると、処理が図 23 の S 301 に進む。

[0117] 次に、図 23 の S 309 において、制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたか否かを判定する。例えば、タブ 61 B が選択されている状態で、タブ 61 A、61 C 又は 61 D のいずれかに対して接触操作が行われた場合、制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたと判定してもよい。また、例えば、表示部 12 が、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に選択解除のマークの表示を行う。そして、画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示された選択解除のマークに対して接触操作が行われた場合、制御部 10 は、タブ 61 の選択が解除されたと判定してもよい。タブ 61 の選択が解除された場合（図 23 の S 309 : YES）、処理が図 23 の S 304 に進む。一方、タブ 61 の選択が解除されていない場合（図 23 の S 309 : NO）、処理が図 23 の S 307 に進む。

[0118] 次に、図 24 の S 310 以降の処理について説明する。図 24 の S 310 において、制御部 10 は、情報処理装置 1 に対する無操作状態が所定期間経過したか否かを判定する。所定時間は、任意の値を設定することができる。情報処理装置 1 に対する無操作状態が所定期間経過した場合（図 24 の S 310 : YES）、処理が図 24 の S 311 に進む。一方、情報処理装置 1 に対する無操作状態が所定期間経過していない場合（図 24 の S 310 : NO）、処理が図 23 の S 304 に進む。

[0119] そして、図 24 の S 311 において、表示部 12 は、画面表示部 5 C に表

示されている画面を消すとともに、画面表示部 5 C のバックライトを消灯する。画面表示部 5 C が電子ペーパーを利用している場合、表示部 1 2 は、画面表示部 5 C の表示を保持する。

[0120] 図 2 4 の S 3 1 2 において、制御部 1 0 は、特定の操作が行われたか否かを判定する。特定の操作は、例えば、画面表示部 5 C に対する接触操作又は筐体 2 C に設けられている起動ボタンの押下操作などの情報処理装置 1 に対する何らかの操作である。特定の操作が行われた場合（図 2 4 の S 3 1 2 : Y E S）、処理が図 2 3 の S 3 0 1 に進む。一方、特定の操作が行われていない場合（図 2 4 の S 3 1 2 : N O）、処理が図 2 4 の S 3 1 2 に進む。すなわち、特定の操作が行われるまで、制御部 1 0 は、図 2 4 の S 3 1 2 の処理を繰り返す。

[0121] 実施例 3 においては、操作者から見て、画面表示部 5 A が右に位置し、画面表示部 5 B が左に位置するようにして、情報処理装置 1 が使用されてもよい。すなわち、図 2 1 B に示す画面表示部 5 C の位置と画面表示部 5 D の位置とが入れ替わるように情報処理装置 1 が 1 8 0 度回転した状態で、情報処理装置 1 が使用されてもよい。操作者から見て、画面表示部 5 C が右に位置し、画面表示部 5 D が左に位置する場合、画面表示部 5 C の右端部にオブジェクト表示領域 6 が配置され、画面表示部 5 D の下端部、画面表示部 5 D の左端部及び下端部にスライド検出領域 7 が配置されてもよい。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態で、情報処理装置 1 を右手で持ちつつ、右手の指で画面表示部 5 C のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A - 6 1 D の選択を行うことが可能である。

[0122] 実施例 3 に係る情報処理装置 1 では、筐体 2 C の内側面に画面表示部 5 C を設け、筐体 2 D の内側面に画面表示部 5 D を設ける例を示した。しかし、これに限定されず、実施例 3 に係る情報処理装置 1 において、筐体 2 C の内側面に画面表示部 5 C を設け、筐体 2 D の内側面に画面表示部 5 D を設けないようにしてもよい。

[0123] 実施例 3 に係る情報処理装置 1 では、画面表示部 5 C にオブジェクト表示

領域 6 を配置する例を示した。しかし、これに限定されず、実施例 3 に係る情報処理装置 1 において、画面表示部 5 D の右端部にオブジェクト表示領域 6 を配置するようにしてもよい。図 25 は、画面表示部 5 D にオブジェクト表示領域 6 を配置した場合の情報処理装置 1 の外観図である。図 25 に示すように、筐体 2 C の内側面と筐体 2 D の内側面とが異なる大きさになっており、画面表示部 5 C と画面表示部 5 D とが異なる大きさになっている。具体的には、筐体 2 D の横幅が筐体 2 C の横幅よりも大きくなっており、画面表示部 5 D の横幅が画面表示部 5 C の横幅よりも大きくなっている。そのため、情報処理装置 1 が閉じた状態において、画面表示部 5 D の一部、すなわち、画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 が露出することになる。

[0124] 情報処理装置 1 が閉じた状態であっても、画面表示部 5 D の一部が露出し、画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D に対する接触操作が可能となる。したがって、情報処理装置 1 が閉じた状態であっても、画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択が可能となる。操作者は、情報処理装置 1 が閉じた状態で、情報処理装置 1 を右手で持ちつつ、右手の指で画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行うことが可能である。操作者は、左手の指で画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行ってもよい。操作者は、情報処理装置 1 が開いた状態で、画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 に表示されるタブ 6 1 A－6 1 D の選択を行ってもよい。

[0125] また、実施例 3 に係る情報処理装置 1 において、筐体 2 D の内側面に画面表示部 5 D を設け、筐体 2 C の内側面に画面表示部 5 C を設けないようにしてもよい。更に、実施例 3 に係る情報処理装置 1 において、不図示のスライド機構を備えることにより、情報処理装置 1 が閉じた状態で筐体 2 C をスライド移動（平行移動）させ、画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 が筐体 2 C によって覆われるようにしてもよい。画面表示部 5 D のオブジェクト表示領域 6 が筐体 2 C によって覆われることにより、画面表示部 5 D を筐体

２Ｃによって保護することが可能となる。スライド機構は、例えば、レール部及びレール部を移動するスライダ等であってもよい。筐体２Ｃの内側面にレール部を設け、筐体２Ｄの内側面にスライダを設けるようにしてもよい。また、筐体２Ｃの内側面にスライダを設け、筐体２Ｄの内側面にレール部を設けるようにしてもよい。

[0126] 実施例３に係る情報処理装置１によれば、画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示されたタブ６１が選択（指定）された後、情報処理装置１を開く操作が行われることにより、タブ６１に応じた制御処理が確定（指示）され、制御部１０は、タブ６１に応じた制御処理を実行する。

[0127] したがって、誤操作によって画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示されたタブ６１が選択された場合であっても、タブ６１に応じた制御処理が直ちに実行されることを抑止できる。例えば、秘密情報やプライバシー情報の閲覧を可能にする制御処理の起動タブが誤操作によって選択された場合であっても、画面表示部５Ｃ又は５Ｄに秘密情報やプライバシー情報が直ちに表示されることを抑止できる。また、例えば、起動させる必要のないプログラムの起動タブが誤操作によって選択された場合であっても、起動させる必要のないプログラムが直ちに実行されることを抑止できる。その結果、起動させる必要のないプログラムの起動時間の削減が可能となり、無駄なメモリ領域の消費を抑制することができる。

[0128] 操作者は、画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示されたタブ６１を選択した後、情報処理装置１を開く操作を行うまでは、画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示されたタブ６１の選択を解除することができる。したがって、誤操作によって画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示されたタブ６１が選択された場合であっても、操作者は、画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示されたタブ６１の選択をやり直すことができる。

[0129] 実施例３に係る情報処理装置１によれば、画面表示部５Ｃ又は５Ｄのオブジェクト表示領域６に表示された複数のタブ６１に対して接触操作が行われ

た場合、所定の基準に従って、接触操作が行われた複数のタブ 6 1 のうちの一つが、選択されたタブ 6 1 として決定される。したがって、接触操作が行われた複数のタブ 6 1 のうちの一つを、選択されたタブ 6 1 として決定することにより、画面表示部 5 C 又は 5 D のオブジェクト表示領域 6 に表示された複数のタブ 6 1 が選択されることを抑止することができる。

[0130] 《コンピュータが読み取り可能な記録媒体》

コンピュータその他の機械、装置（以下、コンピュータ等）に上記いずれかの機能を実現させるプログラムをコンピュータ等が読み取り可能な記録媒体に記録することができる。そして、コンピュータ等に、この記録媒体のプログラムを読み込ませて実行させることにより、その機能を提供させることができる。

[0131] ここで、コンピュータ等が読み取り可能な記録媒体とは、データやプログラム等の情報を電氣的、磁氣的、光学的、機械的、または化学的作用によって蓄積し、コンピュータ等から読み取ることができる記録媒体をいう。このような記録媒体のうちコンピュータ等から取り外し可能なものとしては、例えばフレキシブルディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R/W、DVD、ブルーレイディスク、DAT、8mmテープ、フラッシュメモリなどのメモリカード等がある。また、コンピュータ等に固定された記録媒体としてハードディスクやROM等がある。

符号の説明

- [0132] 1 情報処理装置
- 2、2 A、2 B、2 C、2 D 筐体
- 3、3 A、3 B、3 C、3 D ディスプレイ部
- 4、4 A、4 B、4 C、4 D タッチパネル部
- 5、5 A、5 B、5 C、5 D 画面表示部
- 6 オブジェクト表示領域
- 7 スライド検出領域
- 10 制御部

- 1 1 記憶部
- 1 2 表示部
- 1 3 入力部
- 2 0 CPU (Central Processing Unit)
- 2 1 メモリコントローラ
- 2 2 メインメモリ
- 2 3 ビデオカード
- 2 4 ディスプレイ
- 2 5 I/Oコントローラ
- 2 6 タッチパネル
- 2 7 ディスクコントローラ
- 2 8 記憶ディスク装置
- 3 0、7 0 折り畳み部
- 4 0 開閉検知部
- 4 1 筐体移動検知部
- 5 0 開閉検知器
- 5 1 筐体移動検知器
- 6 0、6 1、6 1 A－6 1 H タブ

請求の範囲

[請求項1]

情報の表示と、表面への接触操作の検出とが可能な画面表示部と、
前記画面表示部にオブジェクトを表示する表示部と、
前記画面表示部に表示された前記オブジェクトに対する接触操作によって前記オブジェクトが選択された後、選択された前記オブジェクトに対する接触操作と異なる所定の操作が行われた場合、選択された前記オブジェクトに応じた処理を実行する制御部と、
を備え、
前記表示部は、前記オブジェクトが選択された場合、選択された前記オブジェクトに関する所定の情報を前記画面表示部に表示し、
前記所定の操作は、前記画面表示部に表示された前記所定の情報に対する接触操作である、
情報処理装置。

[請求項2]

第1の筐体と、
第2の筐体と、
前記第1の筐体と前記第2の筐体とを連結し、前記第1の筐体と前記第2の筐体との連結部分を軸として前記第1の筐体及び前記第2の筐体を回動可能にする連結機構と、を備え、
前記画面表示部は、前記第1の筐体の内側面及び前記第2の筐体の内側面の少なくとも一方に設けられ、
前記オブジェクトの選択は、前記画面表示部の一部が露出するように前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを重ね合わせた状態で行われ、
前記所定の操作は、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とが重ね合わされた状態から前記第1の筐体及び前記第2の筐体の少なくとも一方を回動させることにより、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを引き離す操作である、
請求項1に記載の情報処理装置。

[請求項3] 前記第 1 の筐体の内側面と前記第 1 の筐体の内側面とは同じ大きさであり、

前記オブジェクトの選択は、前記第 1 の筐体の内側面と前記第 2 の筐体の内側面とを重ね合わせ、前記第 1 の筐体及び前記第 2 の筐体の少なくとも一方を平行移動させることにより、前記画面表示部の一部が露出した状態で行われる、

請求項 2 に記載の情報処理装置。

[請求項4] 前記第 1 の筐体の内側面は、前記第 2 の筐体の内側面よりも大きくなっており、

前記画面表示部は、少なくとも前記第 1 の筐体の内側面に設けられ、

前記オブジェクトの選択は、前記第 1 の筐体の内側面と前記第 2 の筐体の内側面とを重ね合わせることにより、前記第 1 の筐体の内側面に設けられた前記画面表示部の一部が露出した状態で行われる、

請求項 2 に記載の情報処理装置。

[請求項5] 前記表示部は、前記画面表示部に複数のオブジェクトを表示し、

前記制御部は、前記画面表示部に表示された複数の前記オブジェクトに対して接触操作が行われた場合、接触操作が行われた複数の前記オブジェクトのうちの一つを、所定の基準に従って選択された前記オブジェクトとして決定する、

請求項 1 から 4 の何れか一項に記載の情報処理装置。

[請求項6] 情報の表示と、表面への接触操作の検出とが可能な画面表示部を備える情報処理装置の制御方法であって、

前記情報処理装置が、

前記画面表示部にオブジェクトを表示する表示ステップと、

前記画面表示部に表示された前記オブジェクトに対する接触操作によって前記オブジェクトが選択された後、選択された前記オブジェクトに対する接触操作と異なる所定の操作が行われた場合、選択された

前記オブジェクトに応じた処理を実行する制御ステップと、
を実行し、

前記表示ステップは、前記オブジェクトが選択された場合、選択された前記オブジェクトに関する所定の情報を前記画面表示部に表示し、

前記所定の操作は、前記画面表示部に表示された前記所定の情報に対する接触操作である、

情報処理装置の制御方法。

[請求項7]

前記情報処理装置は、

第1の筐体と、

第2の筐体と、

前記第1の筐体と前記第2の筐体とを連結し、前記第1の筐体と前記第2の筐体との連結部分を軸として前記第1の筐体及び前記第2の筐体を回動可能にする連結機構と、を備え、

前記画面表示部は、前記第1の筐体の内側面及び前記第2の筐体の内側面の少なくとも一方に設けられ、

前記オブジェクトの選択は、前記画面表示部の一部が露出するように前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを重ね合わせた状態で行われ、

前記所定の操作は、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とが重ね合わされた状態から前記第1の筐体及び前記第2の筐体の少なくとも一方を回動させることにより、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを引き離す操作である、

請求項6に記載の情報処理装置の制御方法。

[請求項8]

前記第1の筐体の内側面と前記第1の筐体の内側面とは同じ大きさであり、

前記オブジェクトの選択は、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを重ね合わせ、前記第1の筐体及び前記第2の筐体の

少なくとも一方を平行移動させることにより、前記画面表示部の一部が露出した状態で行われる、

請求項 7 に記載の情報処理装置の制御方法。

[請求項 9] 前記第 1 の筐体の内側面は、前記第 2 の筐体の内側面よりも大きくなっており、

前記画面表示部は、少なくとも前記第 1 の筐体の内側面に設けられ、

前記オブジェクトの選択は、前記第 1 の筐体の内側面と前記第 2 の筐体の内側面とを重ね合わせることで、前記第 1 の筐体の内側面に設けられた前記画面表示部の一部が露出した状態で行われる、

請求項 7 に記載の情報処理装置の制御方法。

[請求項 10] 前記表示ステップは、前記画面表示部に複数のオブジェクトを表示し、

前記制御ステップは、前記画面表示部に表示された複数の前記オブジェクトに対して接触操作が行われた場合、接触操作が行われた複数の前記オブジェクトのうちの一つを、所定の基準に従って選択された前記オブジェクトとして決定する、

請求項 6 から 9 の何れか一項に記載の情報処理装置の制御方法。

[請求項 11] 情報の表示と、表面への接触操作の検出とが可能な画面表示部を備える情報処理装置の制御プログラムであって、

前記情報処理装置に、

前記画面表示部にオブジェクトを表示する表示ステップと、

前記画面表示部に表示された前記オブジェクトに対する接触操作によって前記オブジェクトが選択された後、選択された前記オブジェクトに対する接触操作と異なる所定の操作が行われた場合、選択された前記オブジェクトに応じた処理を実行する制御ステップと、

を実行させ、

前記表示ステップは、前記オブジェクトが選択された場合、選択さ

れた前記オブジェクトに関する所定の情報を前記画面表示部に表示し、

前記所定の操作は、前記画面表示部に表示された前記所定の情報に対する接触操作である、

情報処理装置の制御プログラム。

[請求項12]

前記情報処理装置は、

第1の筐体と、

第2の筐体と、

前記第1の筐体と前記第2の筐体とを連結し、前記第1の筐体と前記第2の筐体との連結部分を軸として前記第1の筐体及び前記第2の筐体を回動可能にする連結機構と、を備え、

前記画面表示部は、前記第1の筐体の内側面及び前記第2の筐体の内側面の少なくとも一方に設けられ、

前記オブジェクトの選択は、前記画面表示部の一部が露出するように前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを重ね合わせた状態で行われ、

前記所定の操作は、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とが重ね合わされた状態から前記第1の筐体及び前記第2の筐体の少なくとも一方を回動させることにより、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを引き離す操作である、

請求項11に記載の情報処理装置の制御プログラム。

[請求項13]

前記第1の筐体の内側面と前記第1の筐体の内側面とは同じ大きさであり、

前記オブジェクトの選択は、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを重ね合わせ、前記第1の筐体及び前記第2の筐体の少なくとも一方を平行移動させることにより、前記画面表示部の一部が露出した状態で行われる、

請求項12に記載の情報処理装置の制御プログラム。

[請求項14] 前記第1の筐体の内側面は、前記第2の筐体の内側面よりも大きくなっており、

前記画面表示部は、少なくとも前記第1の筐体の内側面に設けられ、

前記オブジェクトの選択は、前記第1の筐体の内側面と前記第2の筐体の内側面とを重ね合わせるにより、前記第1の筐体の内側面に設けられた前記画面表示部の一部が露出した状態で行われる、

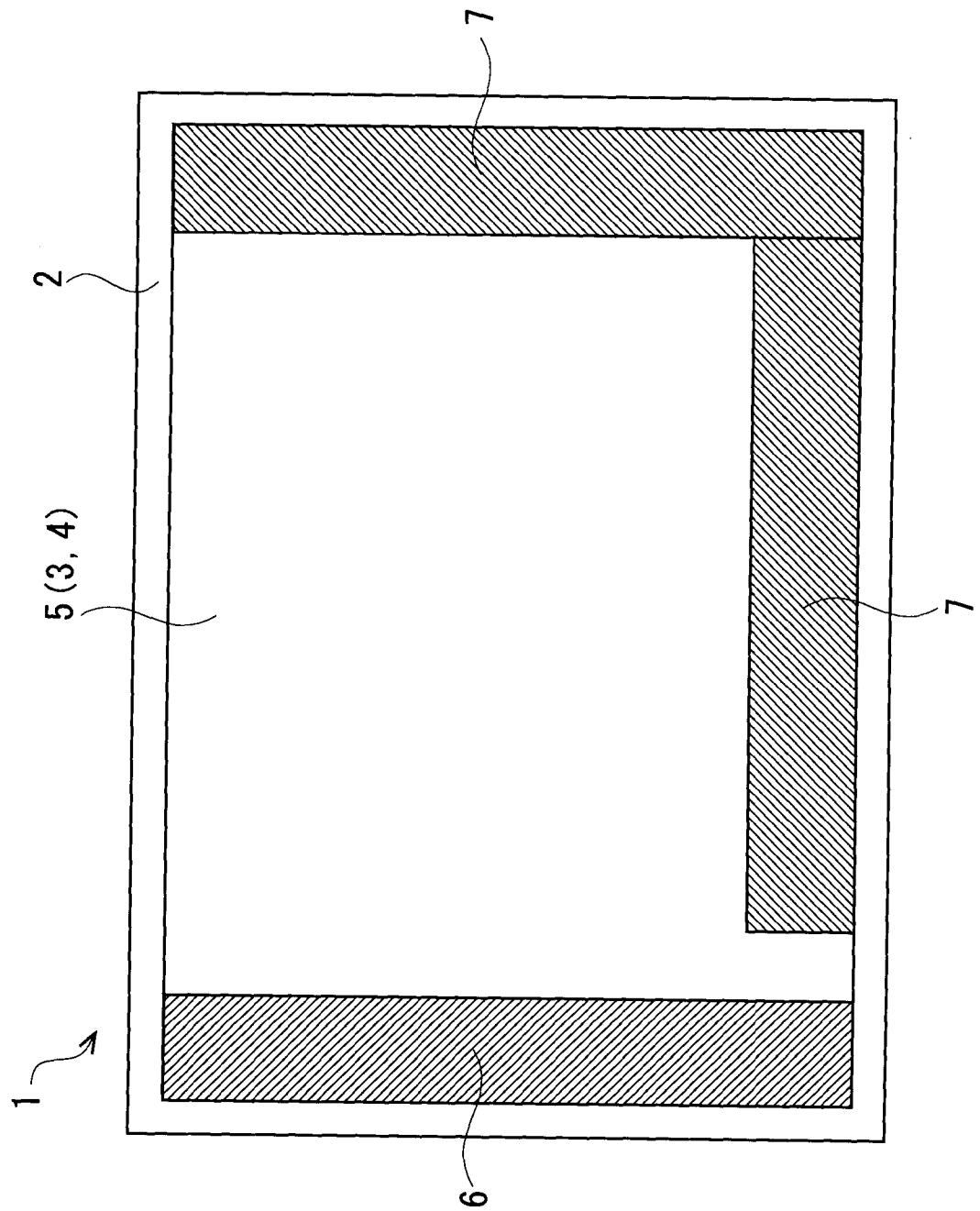
請求項12に記載の情報処理装置の制御プログラム。

[請求項15] 前記表示ステップは、前記画面表示部に複数のオブジェクトを表示し、

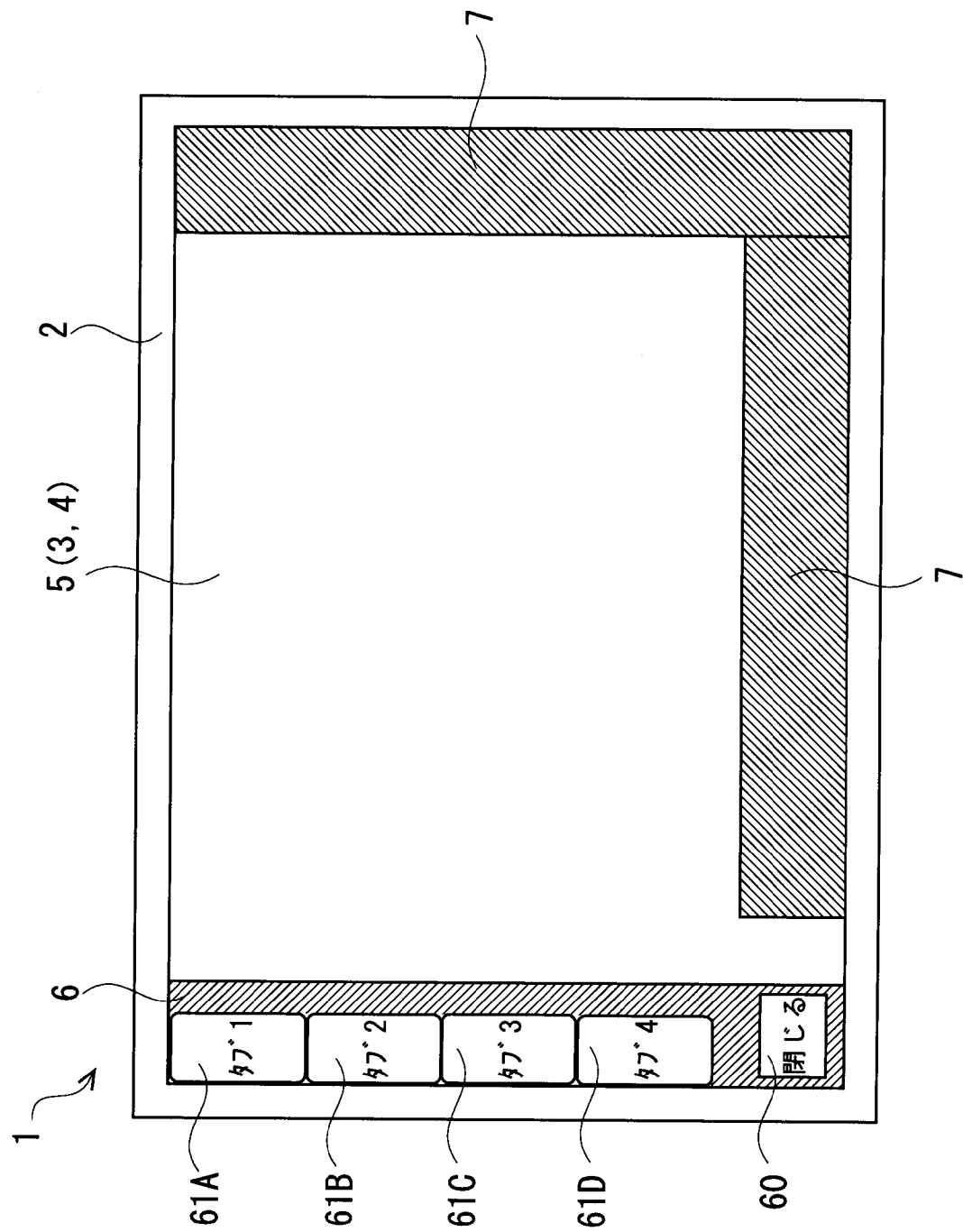
前記制御ステップは、前記画面表示部に表示された複数の前記オブジェクトに対して接触操作が行われた場合、接触操作が行われた複数の前記オブジェクトのうちの一つを、所定の基準に従って選択された前記オブジェクトとして決定する、

請求項11から14の何れか一項に記載の情報処理装置の制御プログラム。

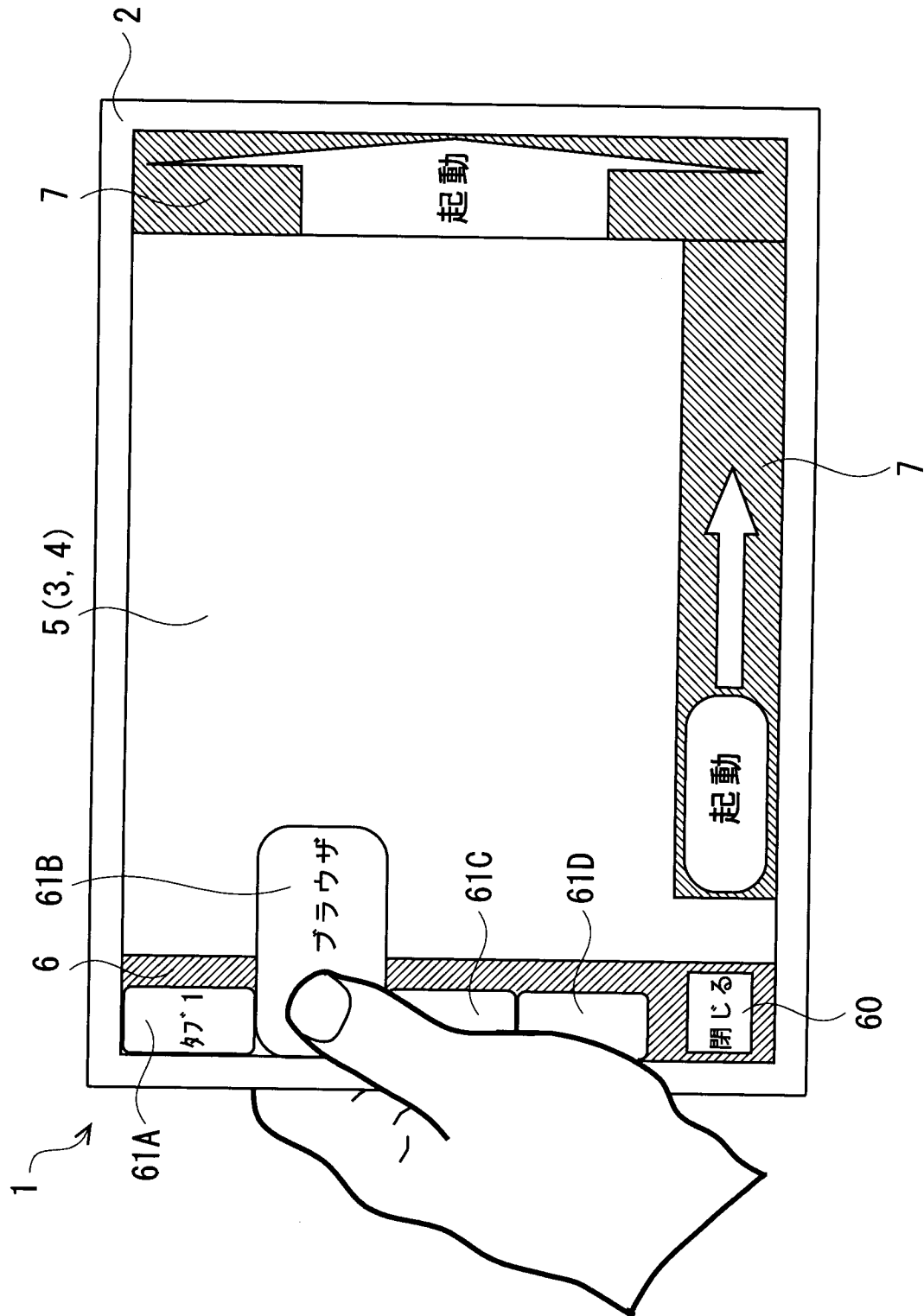
[図1]



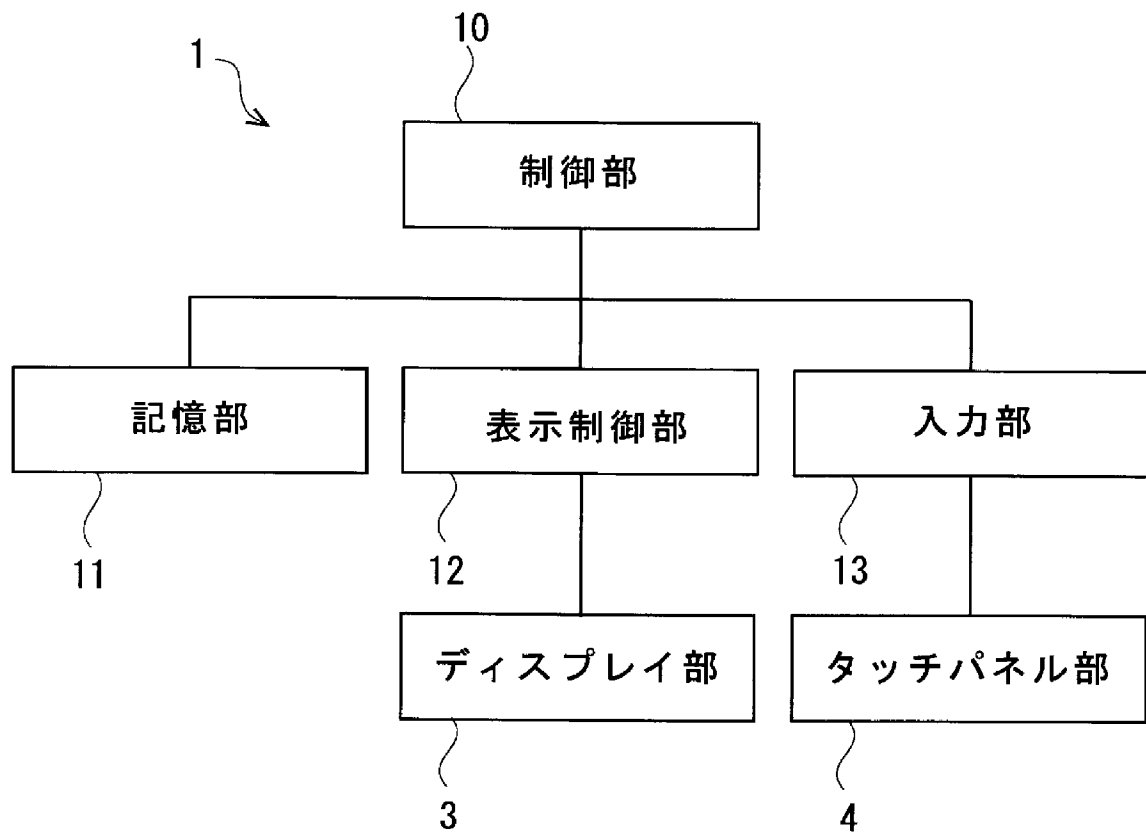
[図2]



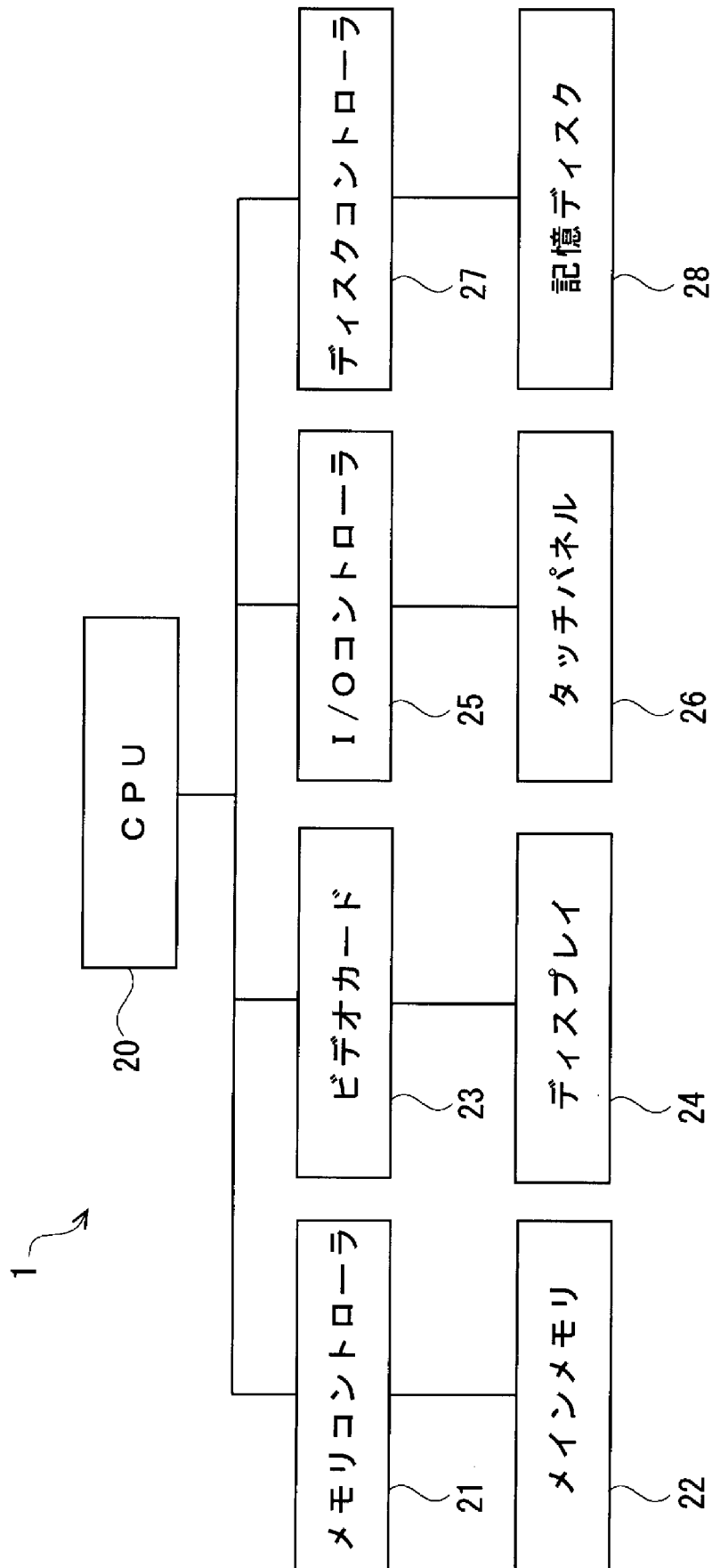
[図3]



[図4]



[図5]



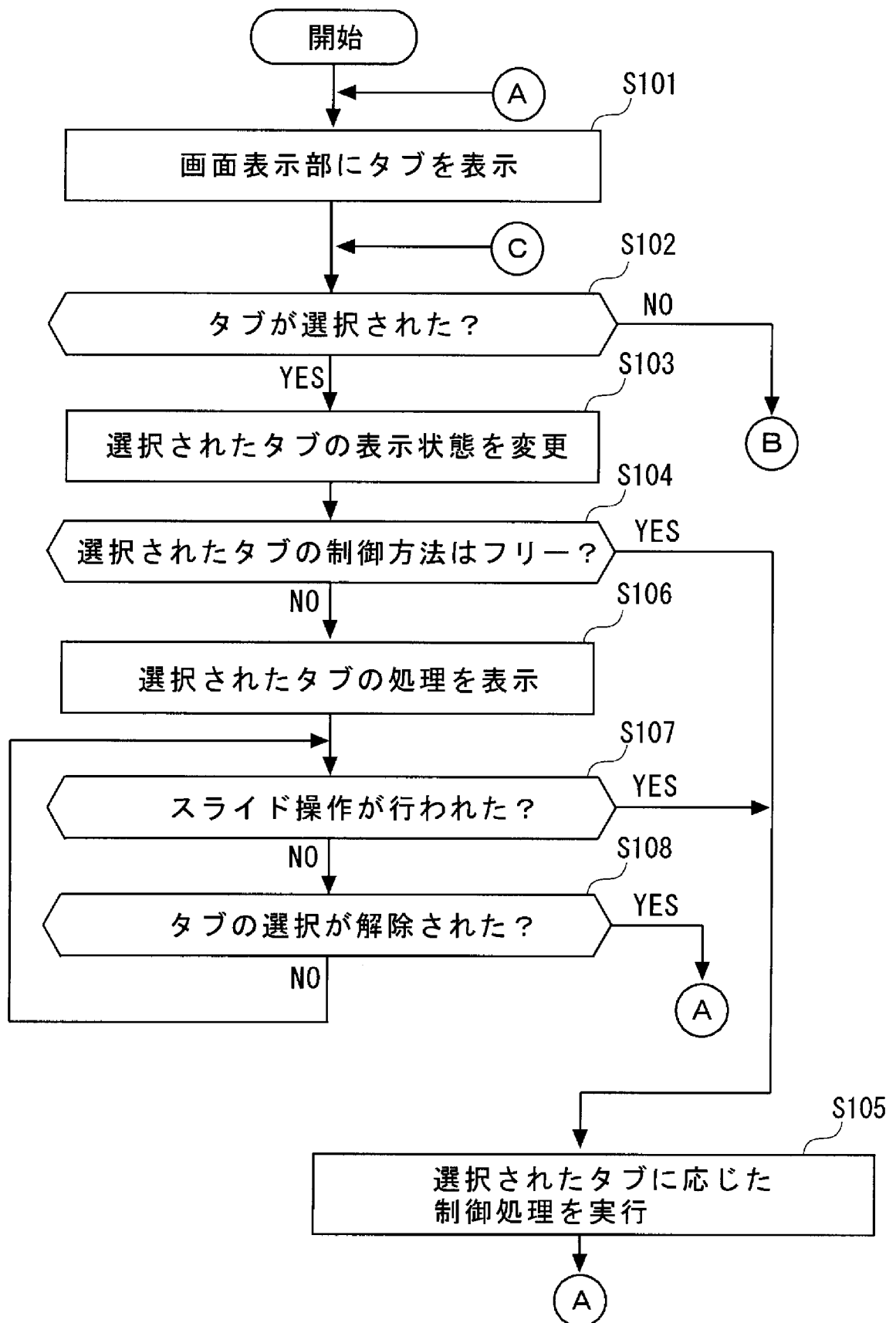
[図6]

タブのデータ項目	タブ0	タブ1	タブ2	タブ3	タブ4
属性データ					
名称	閉じる	タブ1	タブ2	タブ3	タブ4
制御方法	制限	フリー	制限	制限	制限
制御処理	閉じる	開く	起動	パスワード	設定
タブ番号	0	1	2	3	4
呼び出しカウンタ	—	15	50	20	15
固定優先順位	—	10	20	30	40
タブデザイン1	No.0	No.1	No.2	No.3	No.1
タブデザイン2	No.0	No.5	No.6	No.7	No.5
登録データ					
データ名	デフォルト	タブ群2	ブラウザ	住所録	設定
データ種類	システム	タブ	プログラム	データベース	システム
プログラム	—	—	ブラウザプログラム	住所録プログラム	コントロールパネル
起動オプション	—	—	—	—	ALL

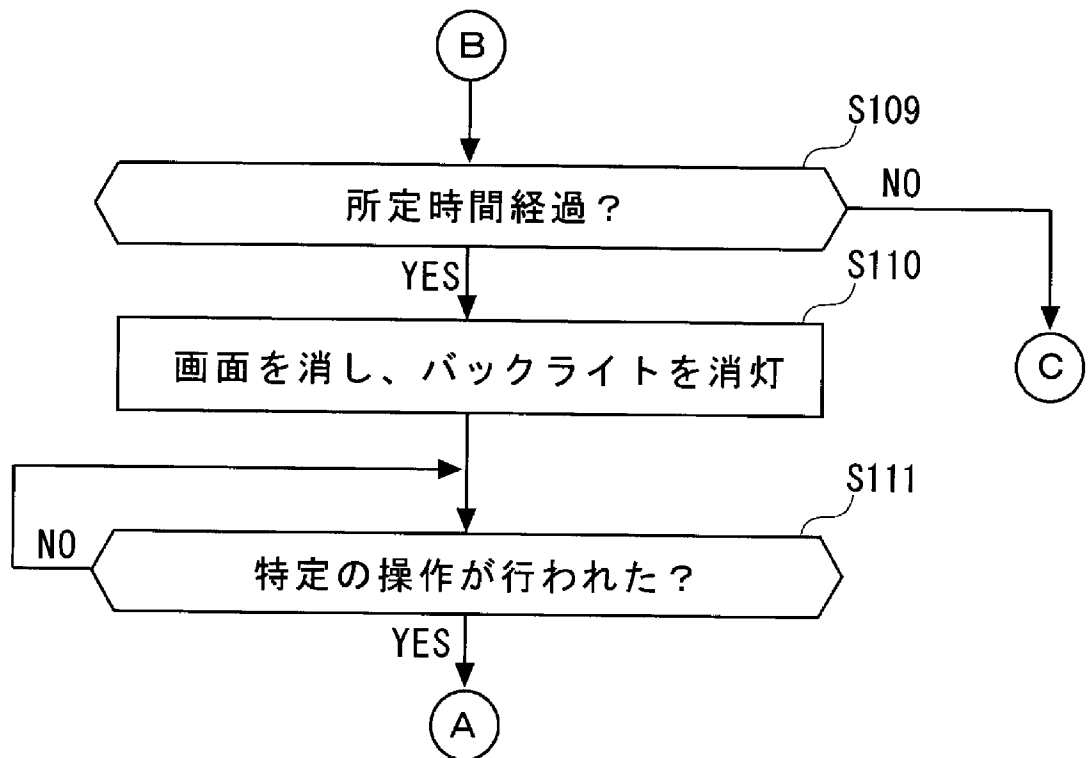
[図7]

タブのデータ項目	タブ0	タブ2-1	タブ2-2	タブ2-3	タブ2-4
属性データ					
名称	閉じる	タブ2-1	タブ2-2	タブ2-3	タブ2-4
制御方法	制限	制限	制限	制限	フリー
制御処理	閉じる	開く	起動	指紋認証	表示
タブ番号	0	1 1	1 2	1 3	1 4
呼び出しカウンタ	—	2	3	3	7
固定優先順位	—	1 0	2 0	3 0	4 0
タブデザイン1	No. 0	No. 1	No. 2	No. 3	No. 1
タブデザイン2	No. 0	No. 5	No. 6	No. 7	No. 5
登録データ					
データ名	仕事関係	スケジュール	メモ帳	書類	万歩計
データ種類	システム	タブ	プログラム	データベース	プログラム
プログラム	—	スケジュール プログラム	メモ帳プログラム	書類プログラム	万歩計プログラム
起動オプション	—	—	—	—	今日

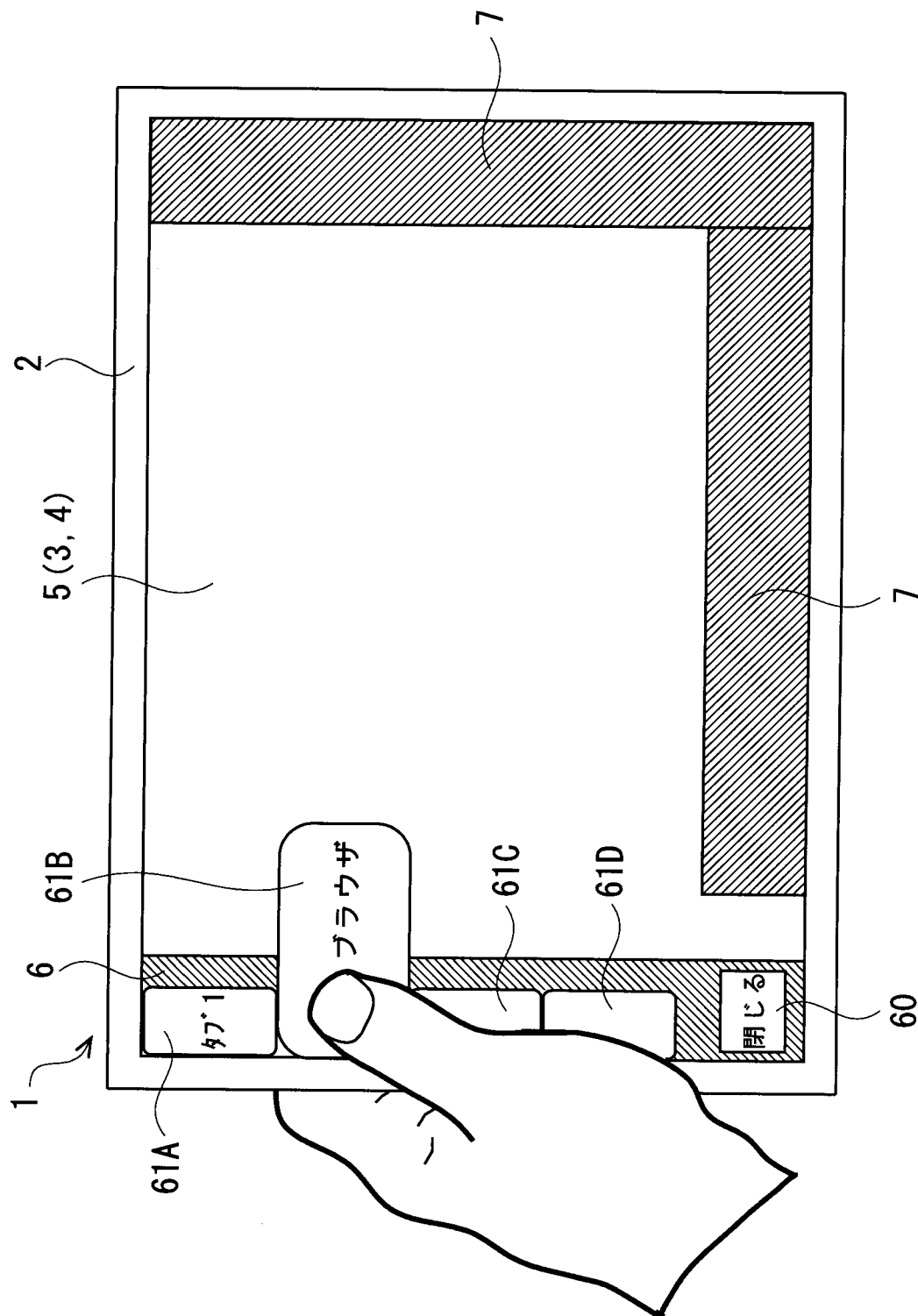
[図8]



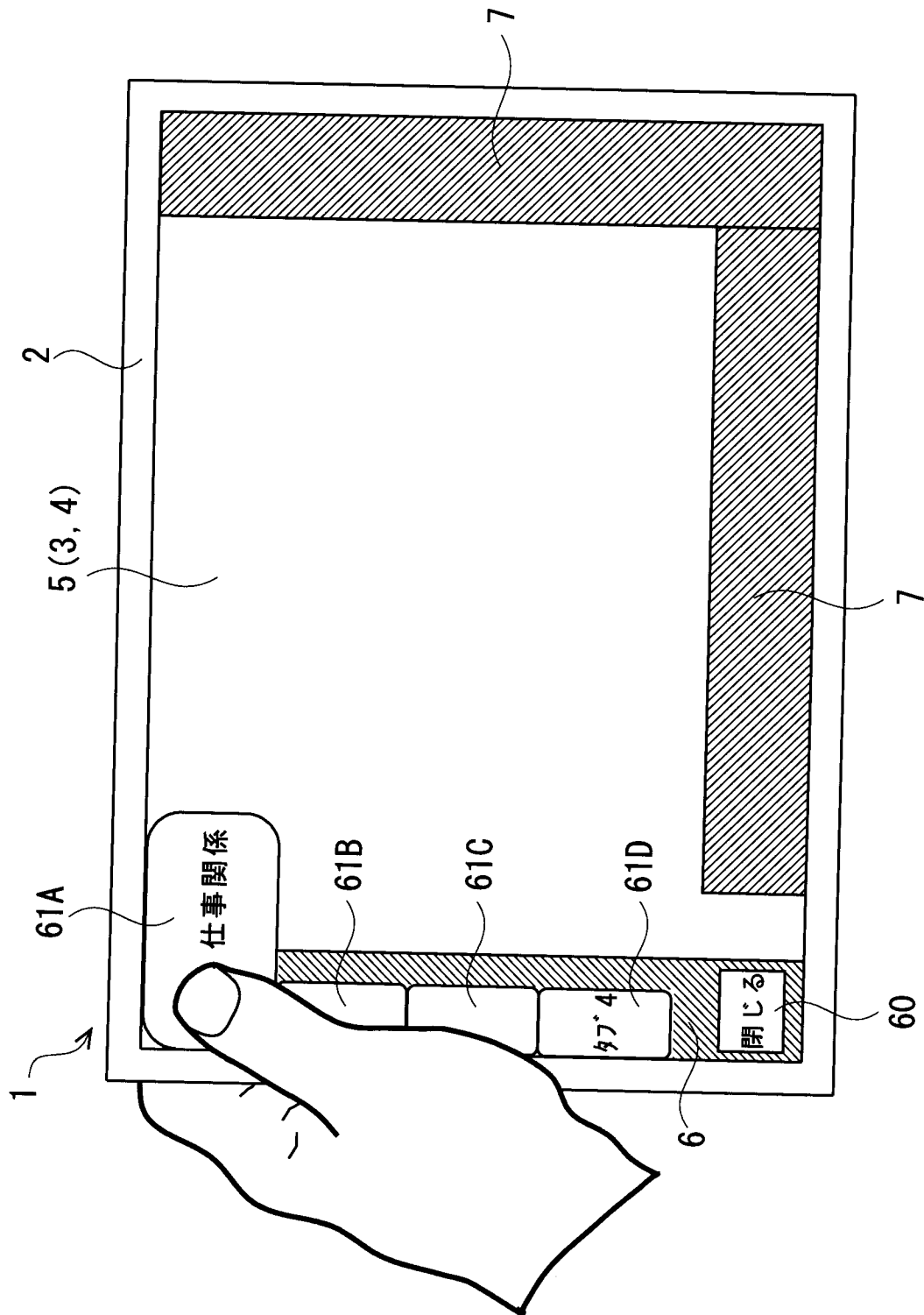
[図9]



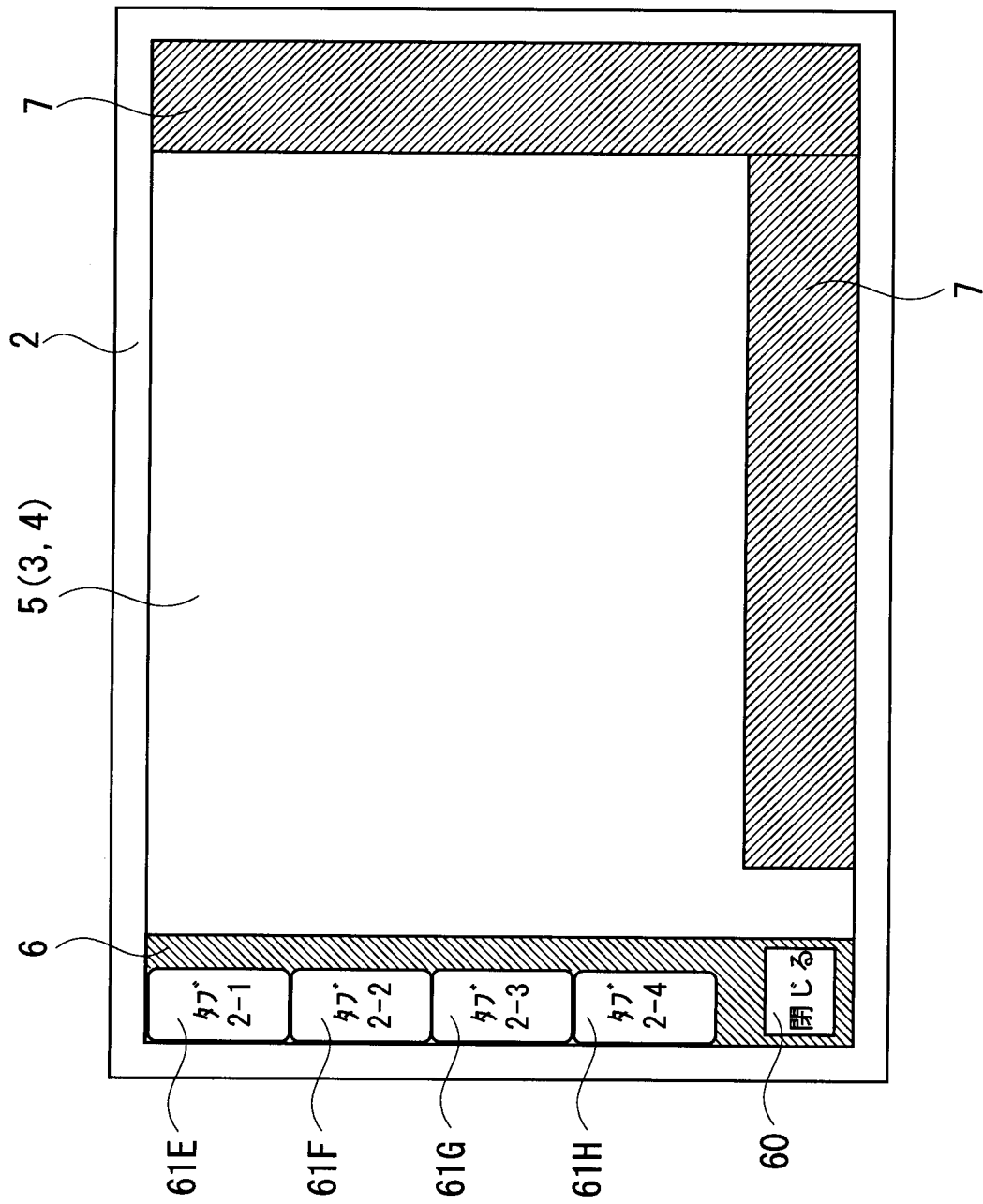
[図10]



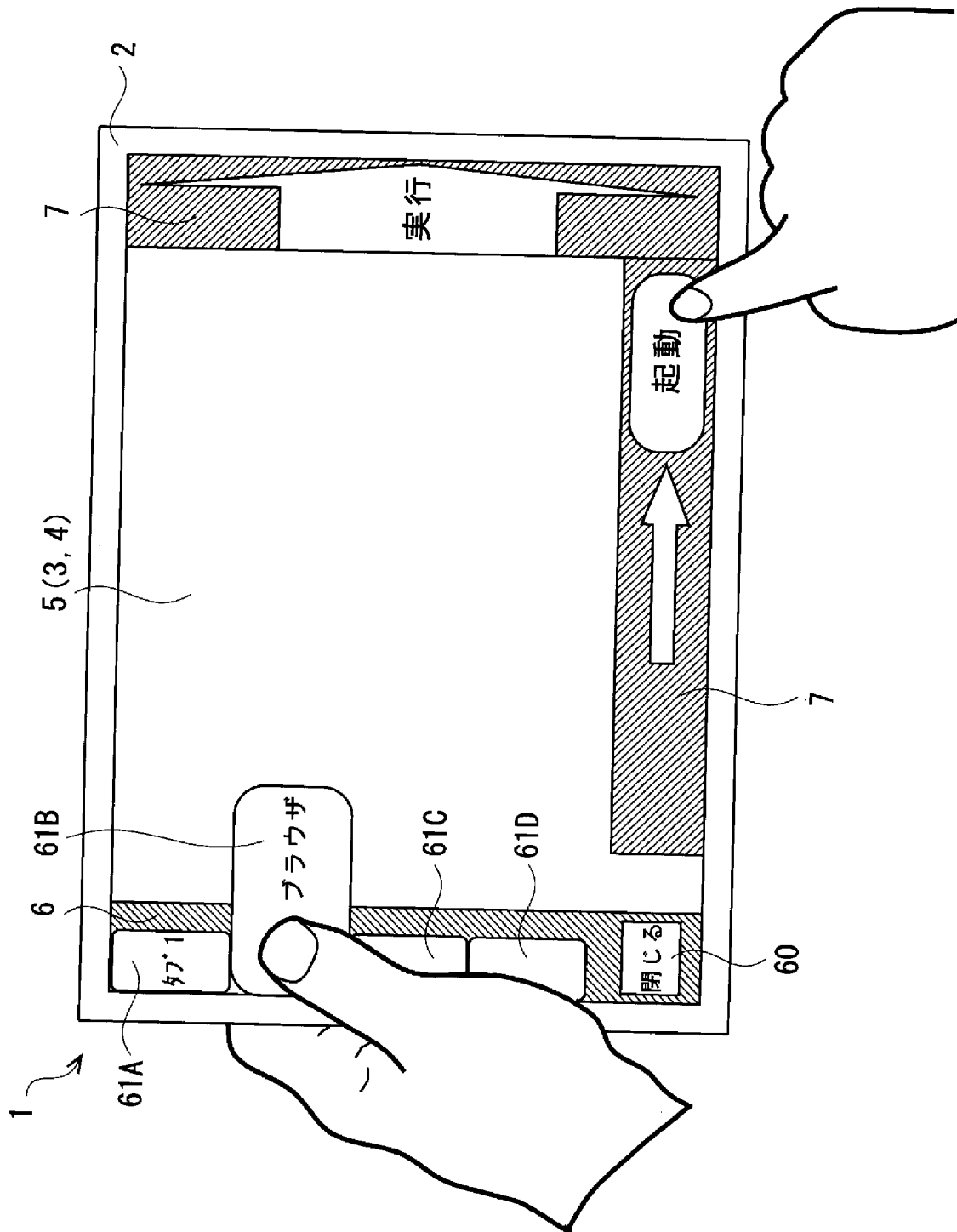
[図11]



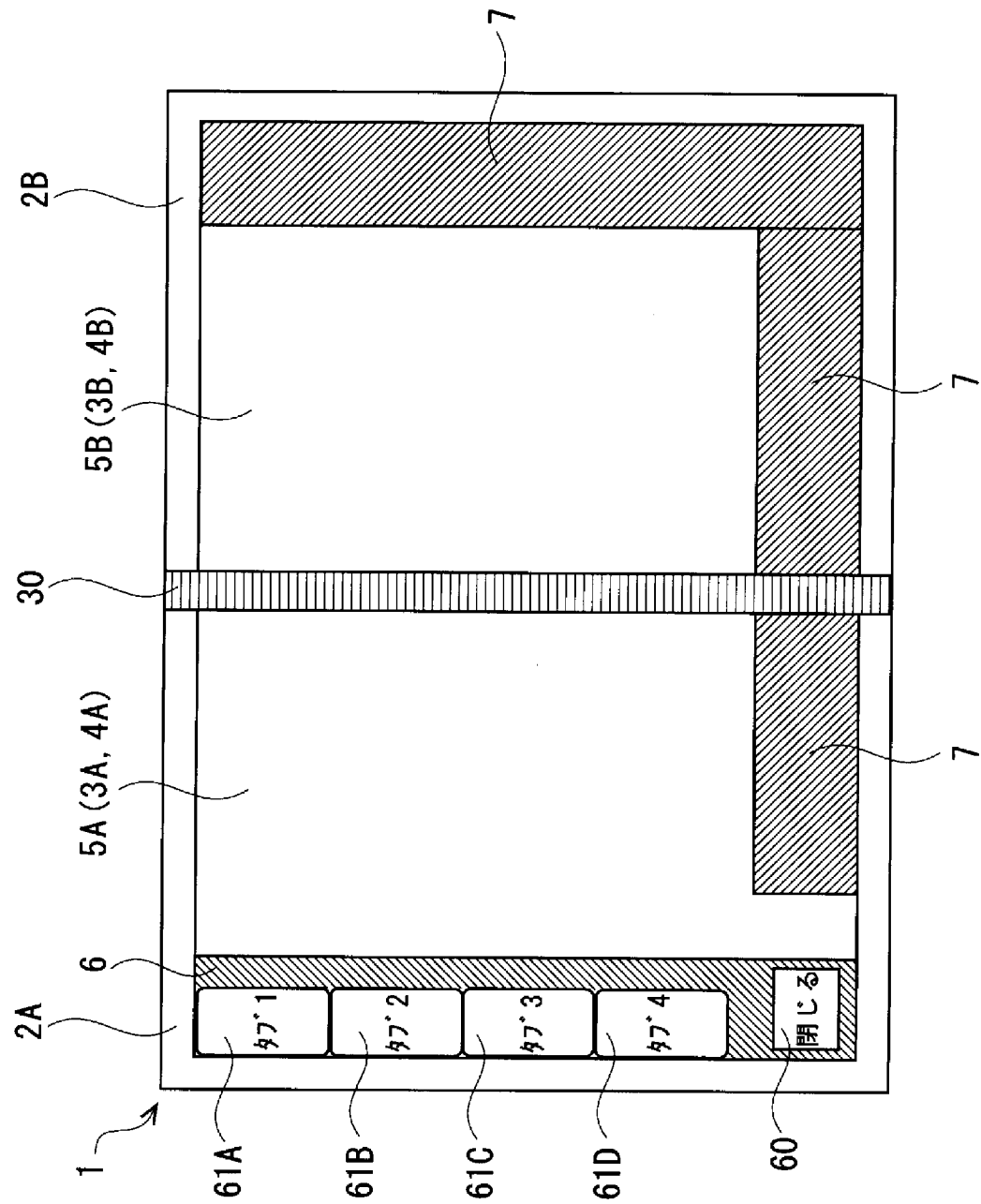
[図12]



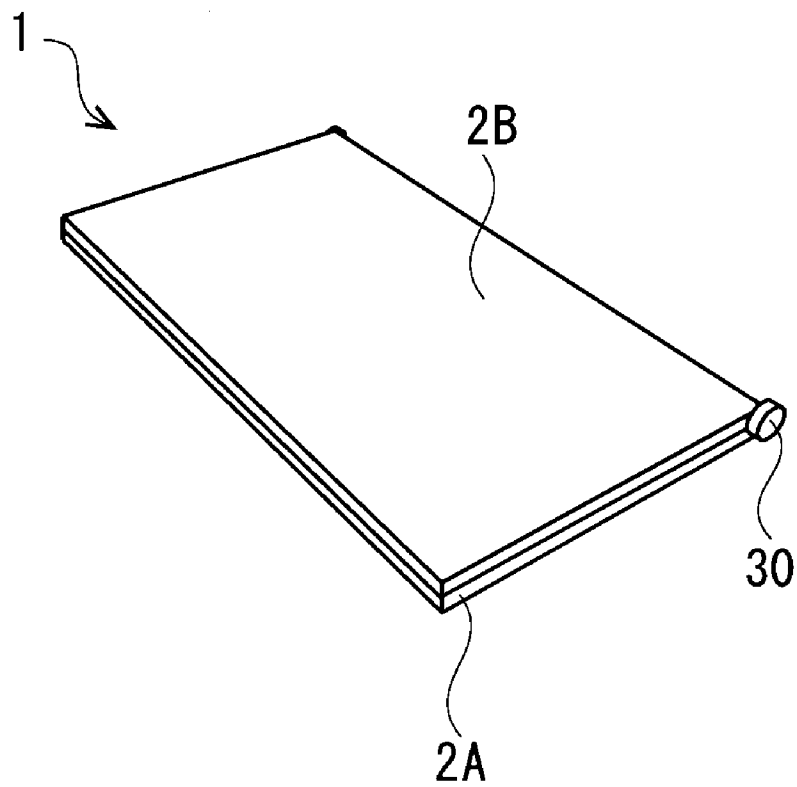
[図13]



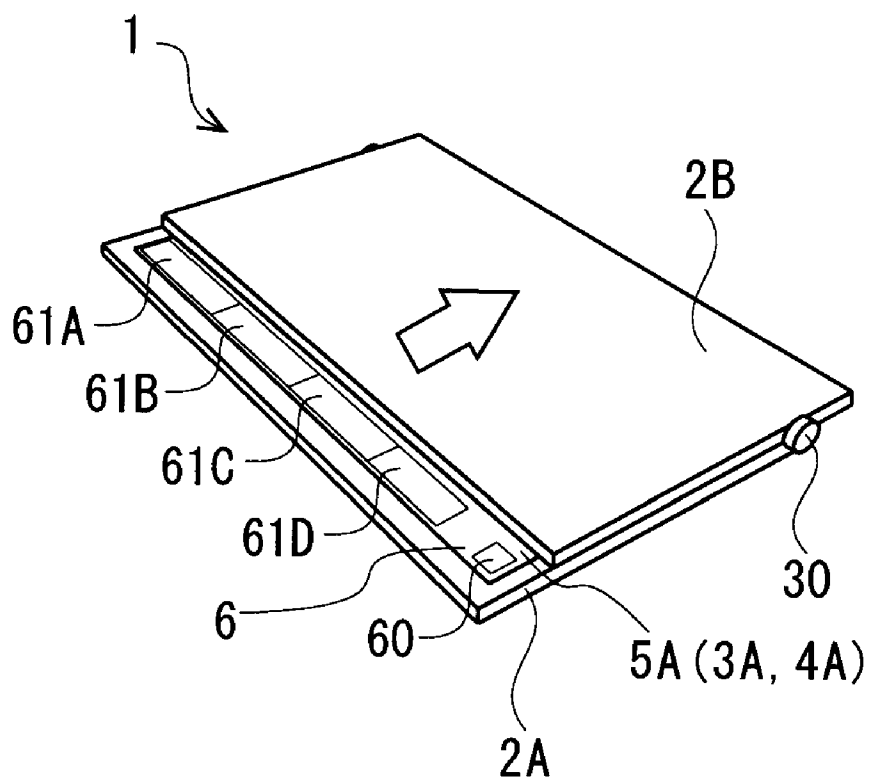
[図14]



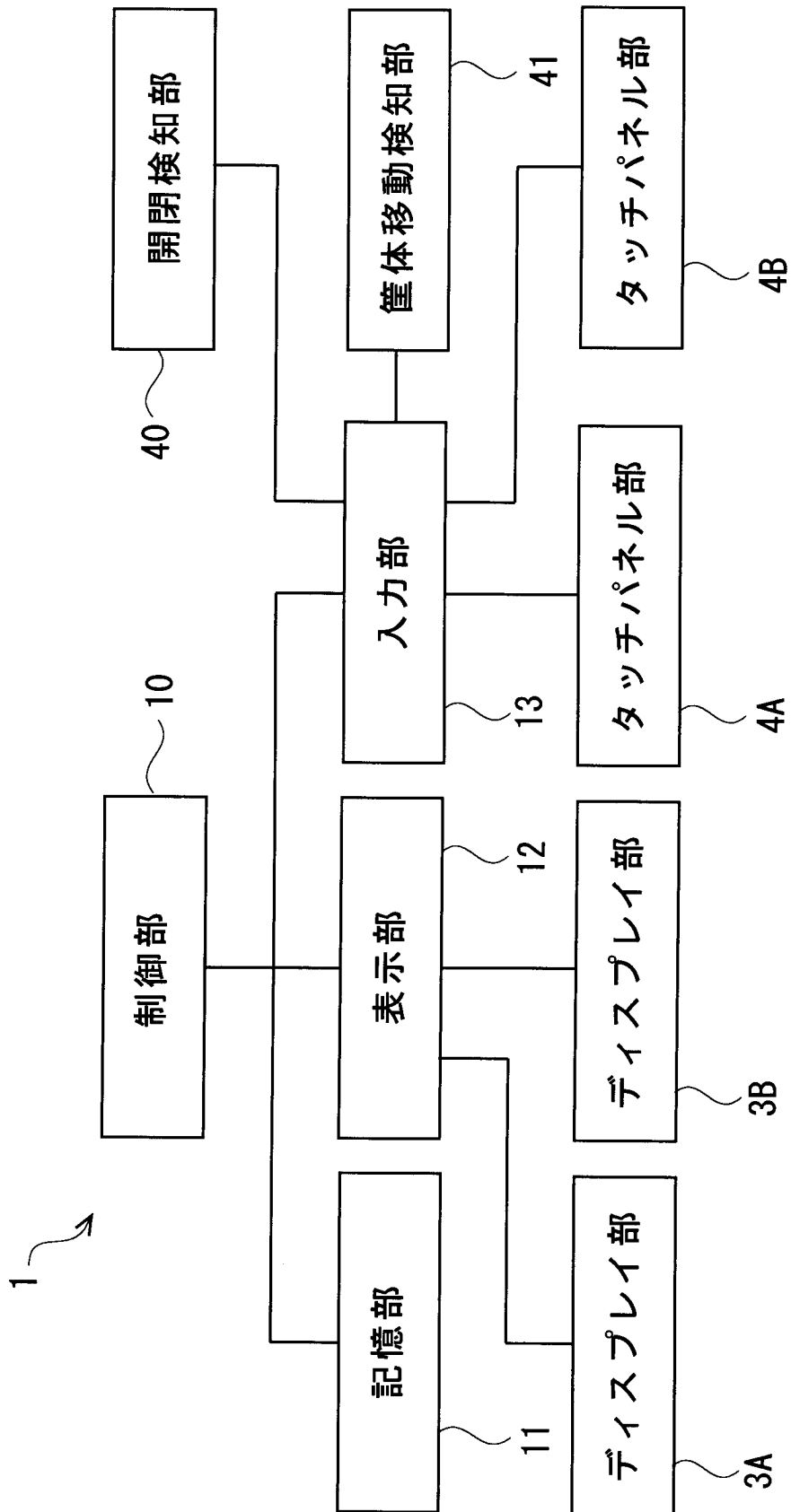
[図15A]



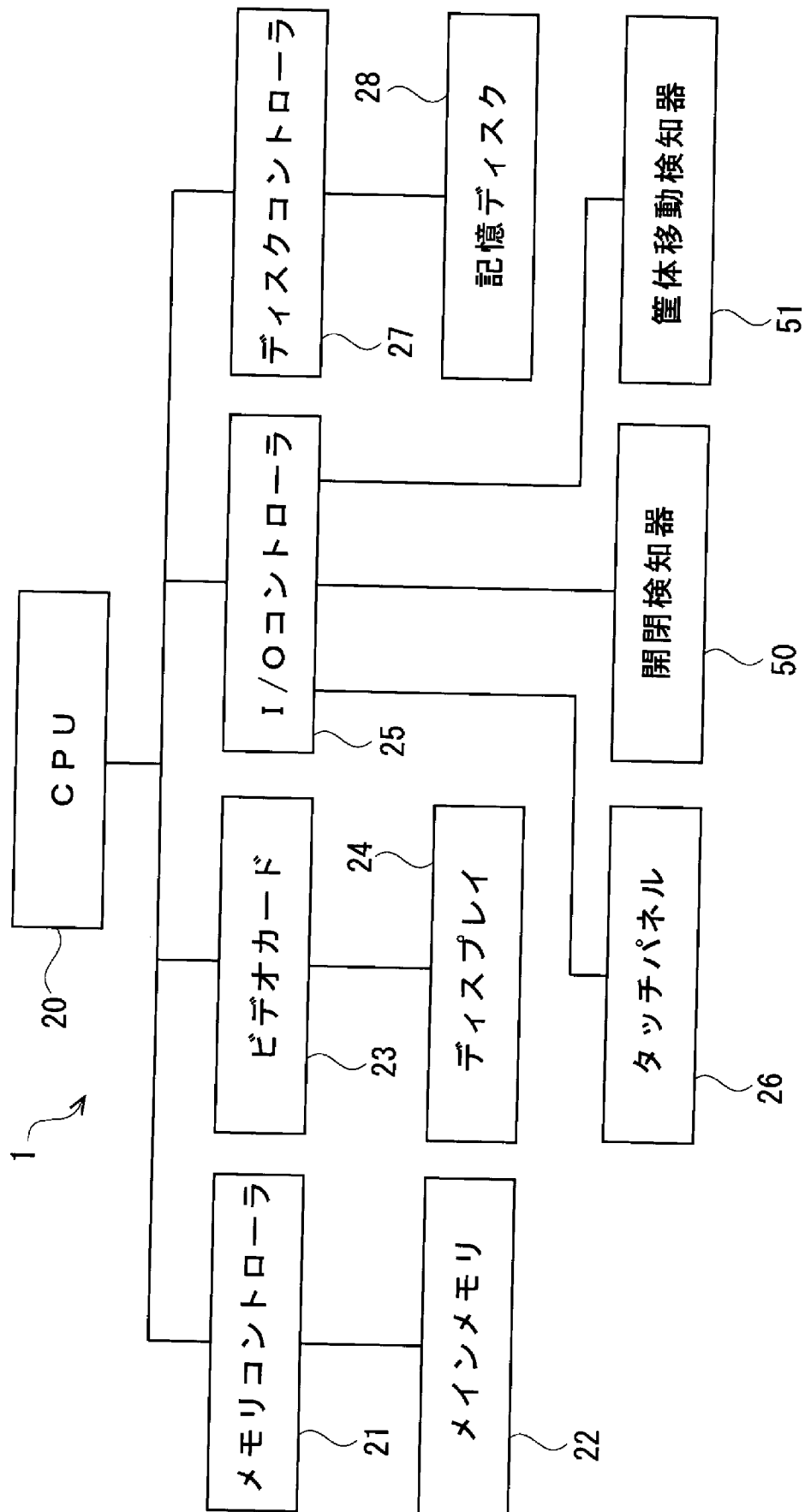
[図15B]



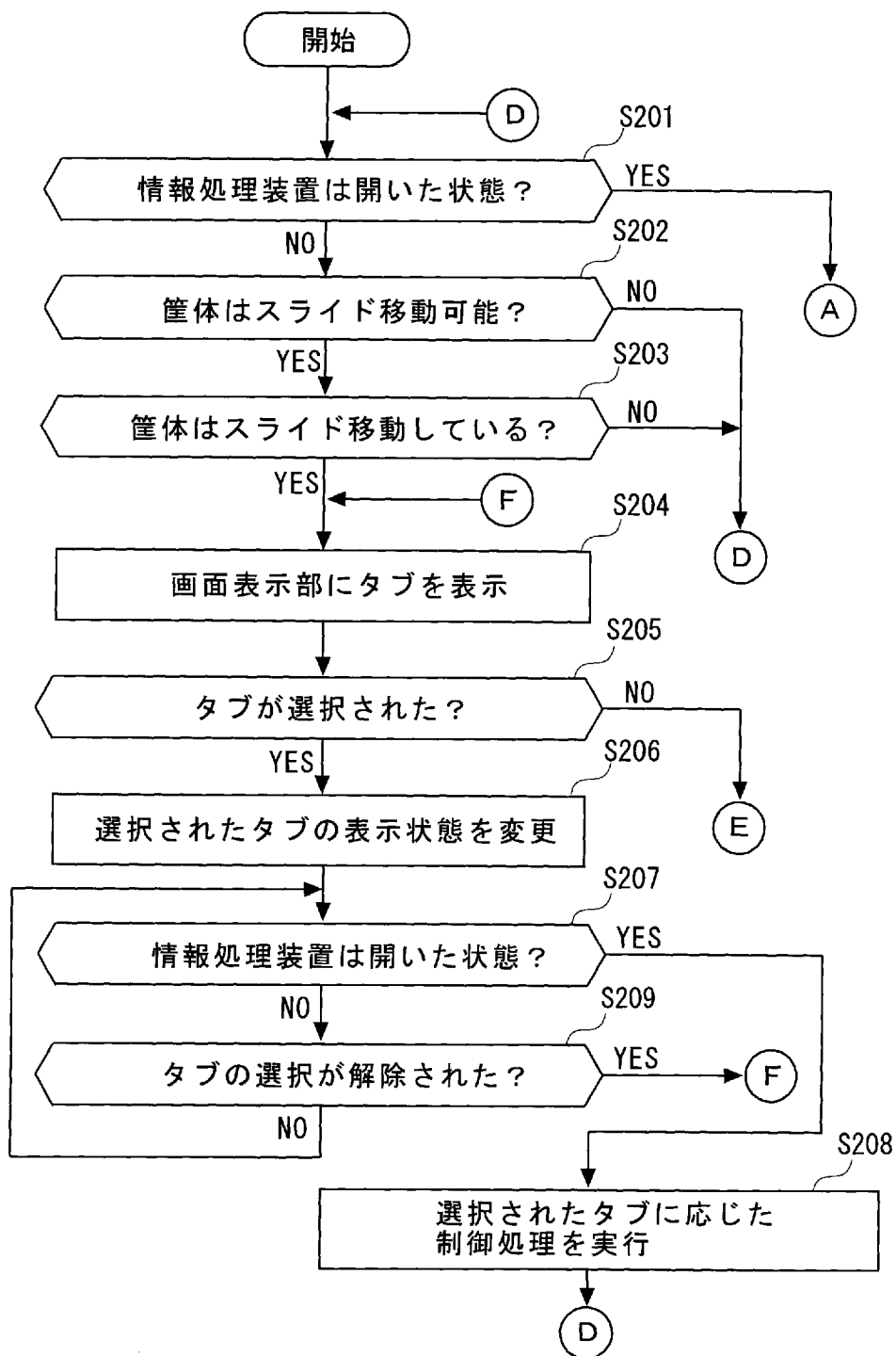
[図16]



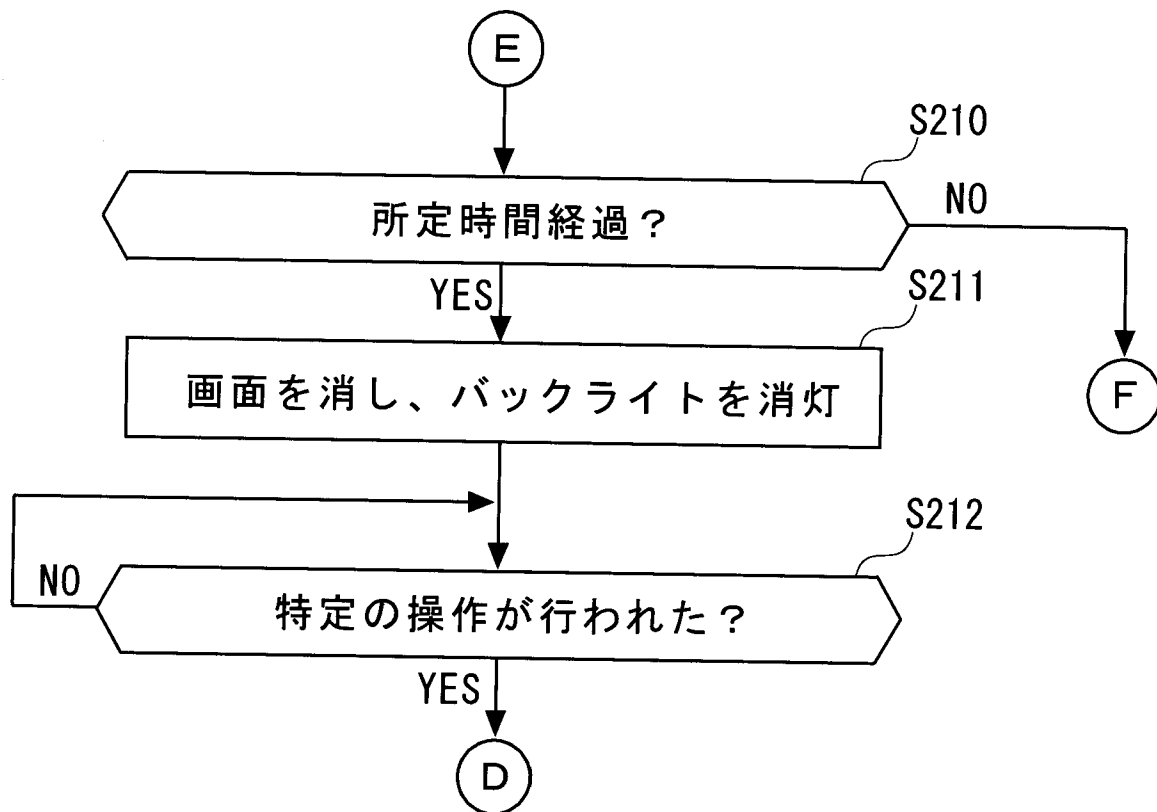
[図17]



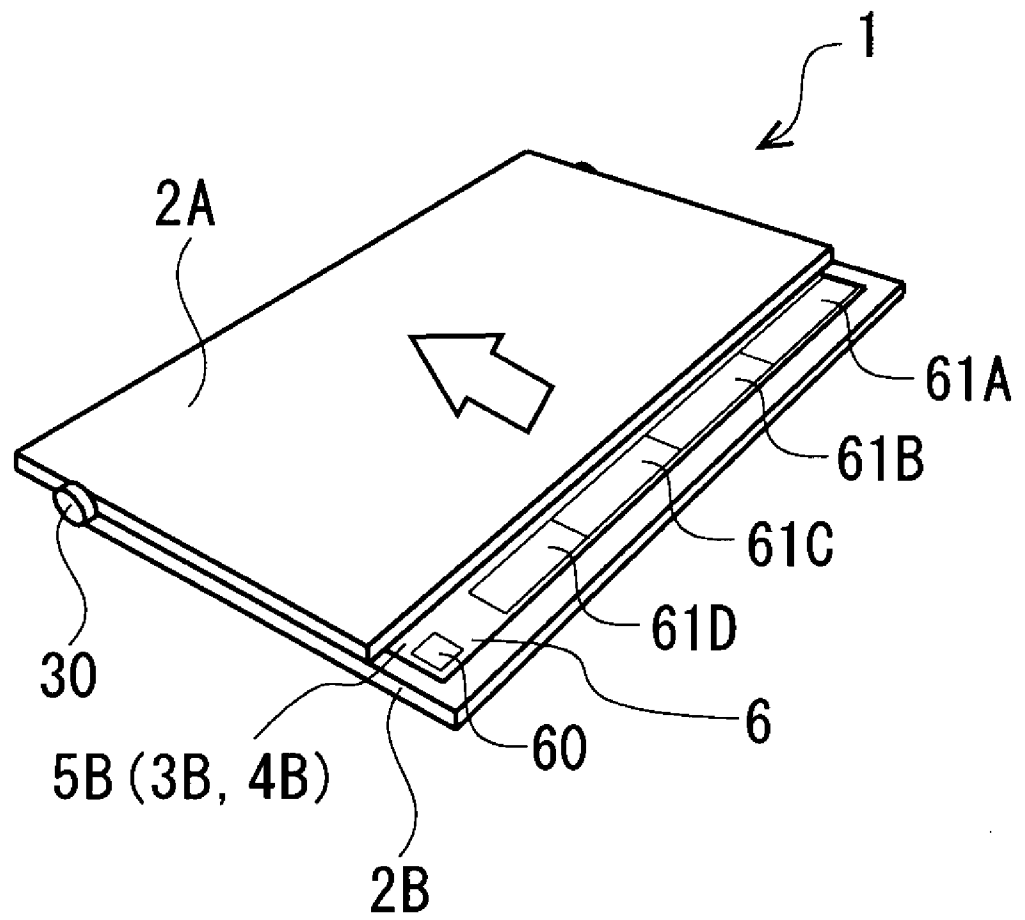
[図18]



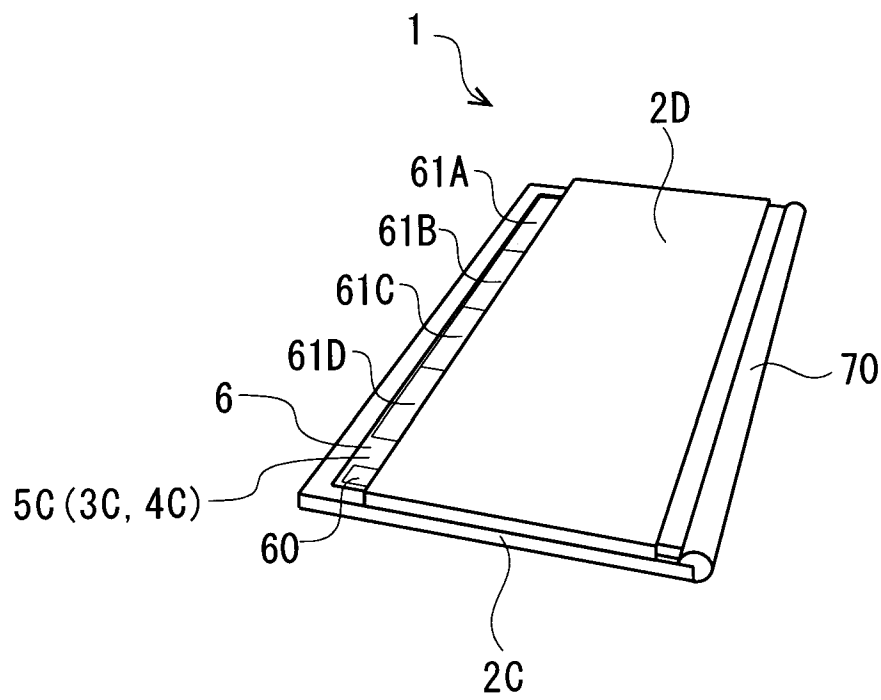
[図19]



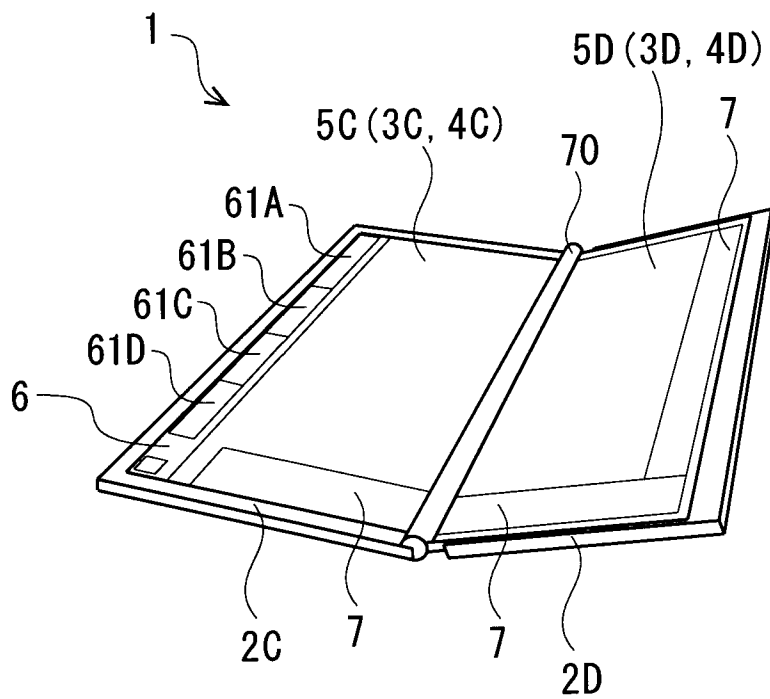
[図20]



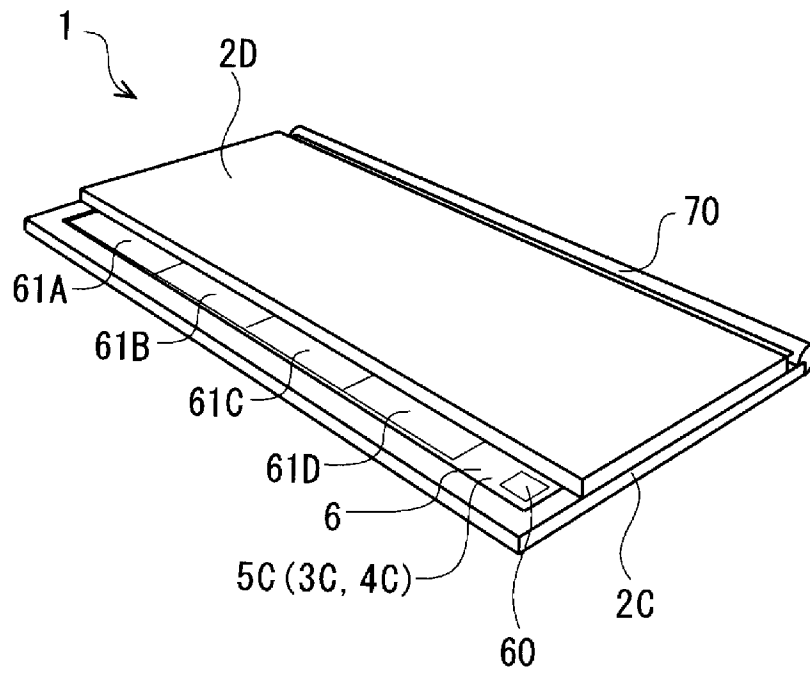
[図21A]



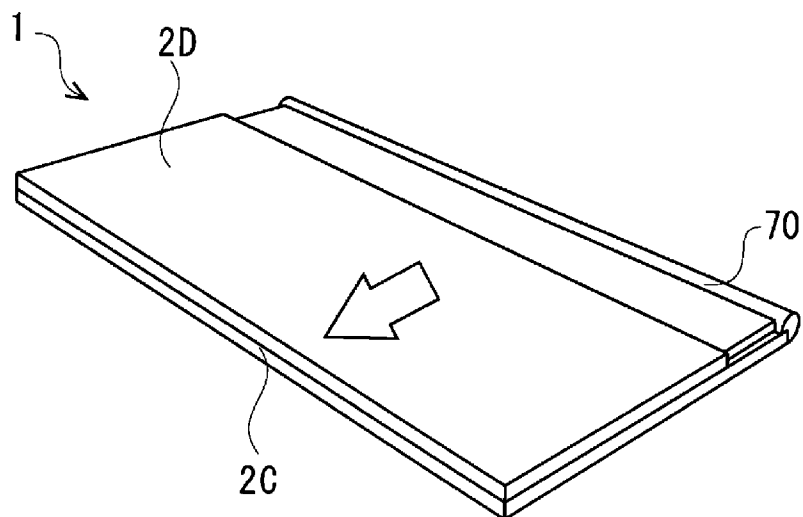
[図21B]



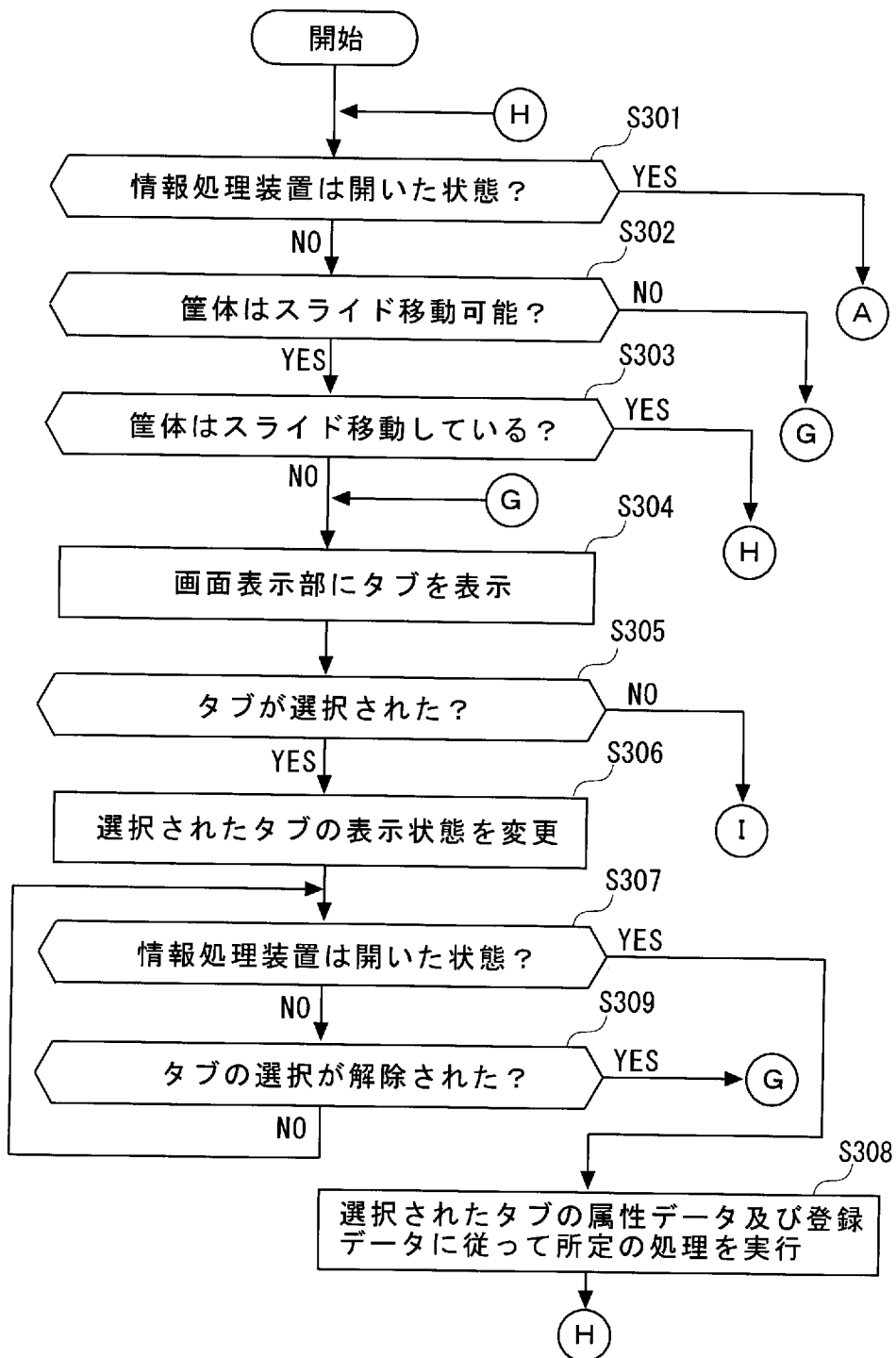
[図22A]



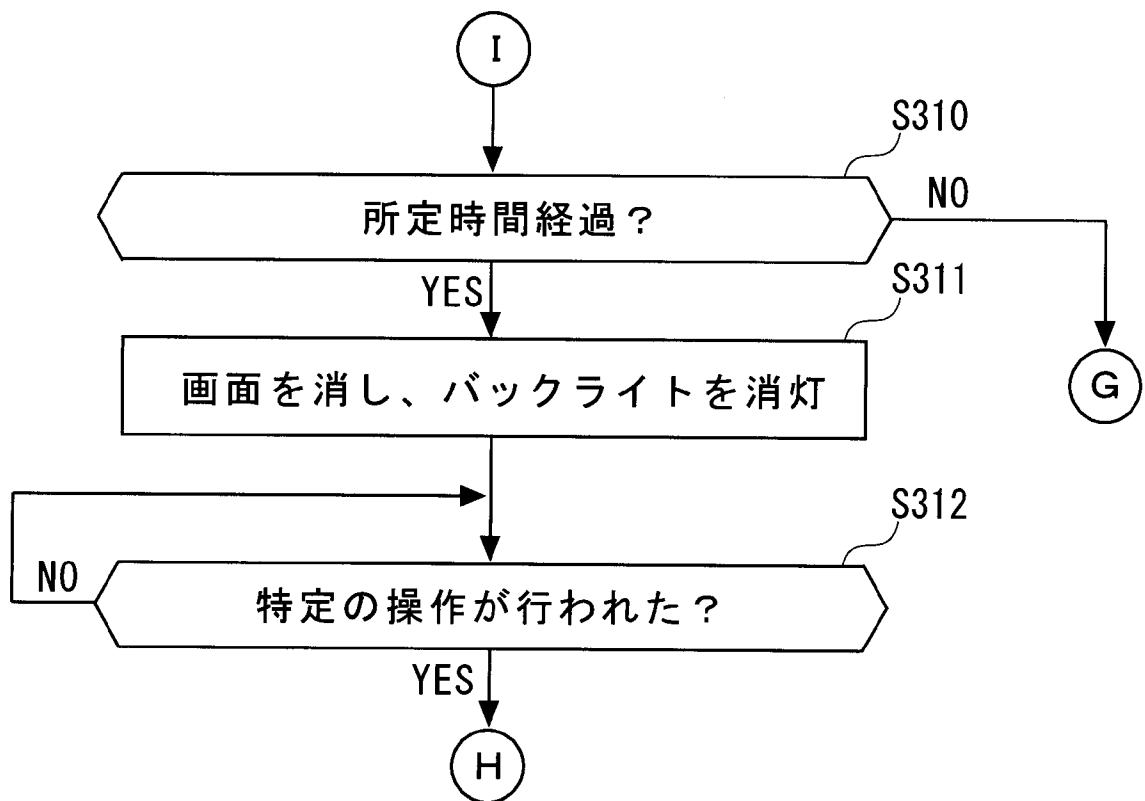
[図22B]



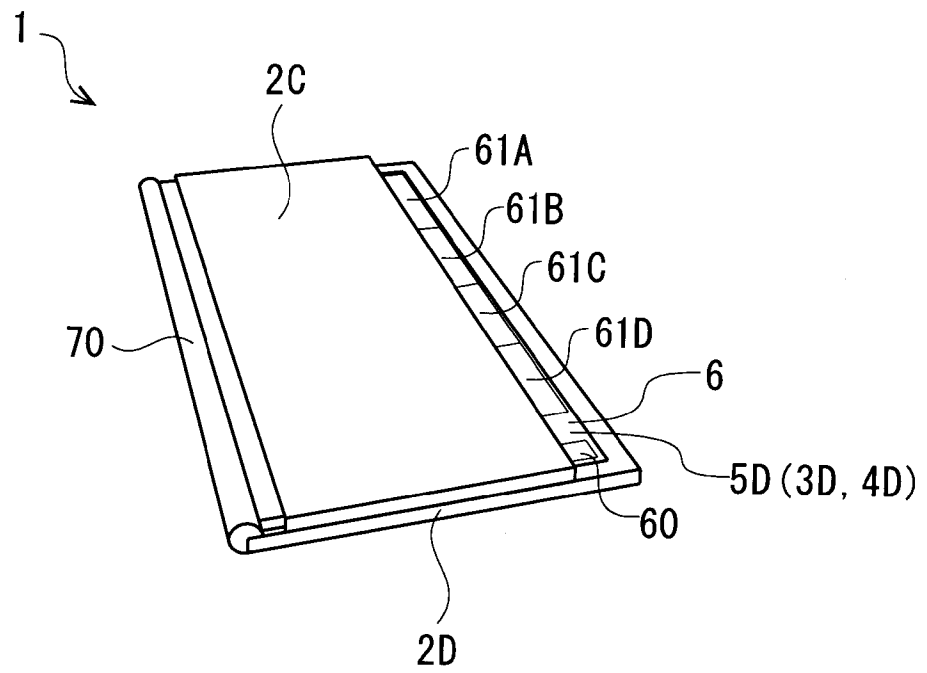
[図23]



[図24]



[図25]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2011/061999

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

G06F3/048 (2006.01) i, G09G5/00 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

G06F3/048, G09G5/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2011
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2011	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2011

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2009-003851 A (NEC Corp.), 08 January 2009 (08.01.2009), abstract (Family: none)	1, 6, 11 2-5, 7-10, 12-15
Y	JP 2009-124449 A (NTT Docomo Inc.), 04 June 2009 (04.06.2009), paragraphs [0041] to [0042] (Family: none)	2-5, 7-10, 12-15
Y	JP 2010-134587 A (Sony Corp.), 17 June 2010 (17.06.2010), abstract & US 2010/0134433 A1 & CN 101751218 A	5, 10, 15



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
04 August, 2011 (04.08.11)

Date of mailing of the international search report
16 August, 2011 (16.08.11)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. G06F3/048 (2006.01)i, G09G5/00 (2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. G06F3/048, G09G5/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 1 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 1 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 1 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2009-003851 A (日本電気株式会社) 2009.01.08, 要約 (ファミリーなし)	1, 6, 11
Y		2-5, 7-10, 12-15
Y	JP 2009-124449 A (株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ) 2009.06.04, 段落【0041】 - 【0042】 (ファミリーなし)	2-5, 7-10, 12-15

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

0 4 . 0 8 . 2 0 1 1

国際調査報告の発送日

1 6 . 0 8 . 2 0 1 1

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

円子 英紀

5 E

3 9 7 9

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 5 2 1

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2010-134587 A (ソニー株式会社) 2010.06.17, 要約 & US 2010/0134433 A1 & CN 101751218 A	5, 10, 15